

IPSHU 研究報告シリーズ

研究報告 No. 8

連想調査による「平和」の意味分析*

松尾雅嗣

広島大学平和科学研究センター



THE INSTITUTE FOR PEACE SCIENCE,
HIROSHIMA UNIVERSITY

July, 1983

広島大学平和科学研究センター

〒730 広島市中区東千田町1丁目1番89号

TEL (082) 241-1221 (内) 829

連想調査による「平和」の意味分析*

松尾 雅 嗣

広島大学平和科学研究センター

目 次

はじめに

1. 「平和」の研究略史	4
2. 連想調査の概要	5
3. 調査データの処理	14
4. “消極的平和”グループ	21
5. “積極的平和”グループ	30
6. 「平和」の意味の構成要素と平和像	35

* 本稿は、日本平和学会春季研究集会（1983年4月23日，独協大学）における報告に加筆したものである。

久屋孝夫（西南学院大学），中尾佳行（山口大学），樋口昌幸（広島大学）の各氏には，調査に関し多大の協力を賜った。また，初瀬龍平（神戸大学），Glenn D.Hook（岡山大学）両氏には原稿を読んでいただき，貴重な助言を賜った。この場をかりて感謝の意を表する。

はじめに

日本人にとって平和とはどのようなものであるかという意味での日本人の平和像なり平和概念を明らかにするには様々な接近法がありうる。平和思想の研究然り、世論調査による平和問題に対する意識、態度の研究然りである。しかしながら、日本語の「平和」という言葉を手掛りに、具体的な言語事実にもとづいて、日本人の平和観なり平和像に接近するという研究は、後述のようにまず皆無と言ってよい。これにはそれなりの理由がないわけではない。図1に示すような簡単な図式的モデルで考えてみよう。¹⁾

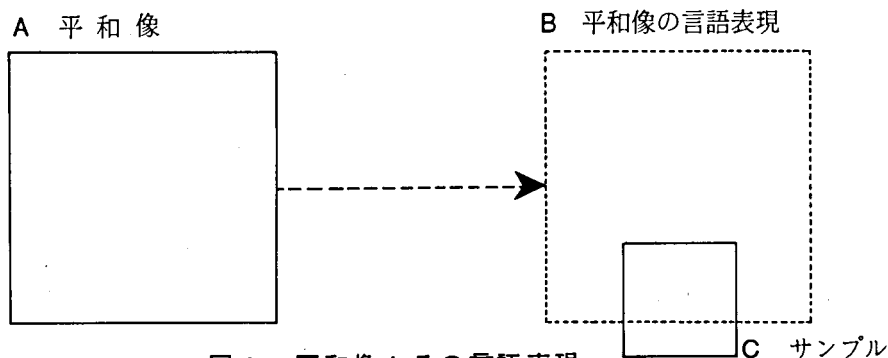


図1 平和像とその言語表現

図1 Aの平和像なり平和観は、何らかの媒体により具体的な対象として顕在化される。²⁾ 図のBは、言語という媒体により顕在化された限りでの平和像の総体である。従って、AとBは一対一には対応しない。また、我々が言語という形で客体化された平和像のすべてを知りえない以上、Bは実質的には未知の無限母集団である。このような場合、サンプルを抽出し、母集団、この場合B、を推定するのが常であるが、サンプル抽出の手続、方法、母集団の属性等の推定の方法などまったく手つかずの問題はあまりに多い。また、図1におけるBとCのズレとして示したように、何らかの形でサンプルを抽出したとしても、言語における意味の多義性、曖昧性を考慮に入れば、サンプルが母集団以外から抽出される可能性も十分考えられる。

このように、ごく一般的抽象的レベルで考えたとしても、言語事実を手掛りとして日本人の平和像に迫るには多くの方法論的、実際の障害が存在する。そのうえ、言語資料を現実には扱う際には、資料の収集、解釈、処理等に関し、予期せぬ様々の隘路が出現することは言を俟たない。

しかしながら、日本人の平和像の解明に際し、その具体的表現である言語事象を無視することはできない。とするならば、言語事象を手掛りにした日本人の平和像の解明にどのような方法がありうるであろうか。前述のように確立された方法はない。ここでひとつ考えられるのは、「平和」という単語そのものを対象として、母集団を限定するという方法である。「平和」という単語を対象とするとしても、まず、対象をこの単語だけに限定することに対する異論もありえようし、³⁾ また、具体的には、「平和」を含むどのような言語単位を対象とするかという問題も残る。しかし、蓄積の乏しい研究の現状に鑑みれば、対象をさしあたり「平和」という言葉に限定して、パイロット・スタディを試みることは妥当であろう。本稿はこのようなパイロット・スタディの一環であり、「平和」という言葉を手掛りに日本人の平和像、平和観に接近する研究の一環である。

日本人の平和像への接近を目的として、「平和」という言葉に着目するとき、日本語における「平和」という言葉の歴史、他言語の「平和」に相等する語との比較等、様々な問題がある。しかし、本稿では、問題を、現在の日本語における「平和」の意味に限定する。具体的には、問題を更に限定して、日本語の「平和」という言葉が、どのような意味的要素から成るかを明らかにすることが、本稿の第一の目的である。ただし、このような要素は、日本人の平和像をひとつの構造を有するシステムと仮定したとき、その構成要素と見なしうるものだからである。

図1に示したモデルに従えば、「平和」の意味の構成要素を明らかにするには、適当な「平和」のサンプルあるいは用例を抽出して、これを分析することになる。しかし、書き言葉だけを対象とするにせよ、必要にして十分な量の用例を収集することは決して容易ではない。勿論それ以前に、どの程度の量が必要にして十分なのかというサンプリングの問題も存在する。⁴⁾ それゆえ、研究の現段階では、実際に使用された「平和」の用例を対象とするよりは、図1のモデルから一度離れて、人為的な方法で「平和」の意味の構成要素を導出し、それを出発点とする方が、研究の効率からしても望ましいと言えよう。

任意の単語の意味を人為的、実験的に導出する方法としては、OsgoodらのSemantic Differential法（以下、SD法と略称）と、心理学で用いられる連想調査法がある。⁵⁾ いずれの方法についても、後述のように「平和」を対象とした調査例が報告されている。このふたつの方法の最も大きな差異は、我々の関心に関する限りでは、その扱う“意味”に存する。周知の如く、言語学者、論理学者の間では、言葉の“意味”を外延（denotation）

と内包 (connotation), あるいは指示的意味と情緒的意味, に二分することがしばしば行なわれる。⁶⁾ SD法で扱うのは, もっぱら語の内包的, 情緒的意味であり, 外延的, 指示的意味は対象とされない。⁷⁾ これに対して, 連想法が対象とするのは, このふたつの意味をともに含んだ連想的意味とも称すべきものであり,⁸⁾ 場合により言語学に言う“意味の場”に近くなる。⁹⁾ このふたつの方法を比較して, 本稿で採用したのは後者, 即ち連想法である。理由はふたつある。第一は, 前述のような研究の現段階では, SD法のように, 「平和」という語の内包的情緒的意味特性に対象を限定するより, 「平和」という語に関し, 全体的な見取図をまず得ておいた方が望ましいと判断したからであり, 第二に, 「平和」という刺激語 (stimulus word) に対する反応度数の大きい反応語 (response word) 相互の関係を明らかにすることにより, 「平和」の意味の理解に欠くことのできない意味的要素を抽出しうるのみならず, 日本人の平和像ないしは平和観の内部構造への第一次接近が可能である, 少なくともそれに対する示唆, 手掛りが得られる, と判断したからである。このように, 連想調査における反応語の相互関係から, 日本人の平和像の構造への手掛りを得るのが, 本稿の第二の目的である。

このように連想法がかなりの情報を与えることは十分に期待しうる。しかし, 連想法そのものに問題がないわけではない。反応語としてどのような語が出現するかについては, ともかく,¹⁰⁾ どのような語が欠落するかについては明らかでない。換言すれば, 連想法によって, 人間の意識なり思考のどのような部分が引き出せないか, あるいは引き出せるかが明らかでない。この点を考慮に入れて, 本稿では連想調査の結果の解釈に際し, 文学作品や被爆体験記における「平和」の用例を参考にして, これを補なうこととする。

以上, 本稿の前提と目的を簡単に述べた。一言にして言えば, 本稿の第一の目的は, 日本語の「平和」の意味を構成する意味的要素ないしは因子を明らかにすることであり, 第二の目的は, 日本人の平和像なり平和観の構造に関しての第一次近似を得ることである。

1. 「平和」の研究略史

「平和」という言葉を直接の対象とした研究、あるいは範囲を広げて「平和」という言葉を対象のうちを含む研究はごくわずかで、断片的であるが、本論に入る前に、これまでの「平和」という言葉を対象とした研究について簡単に触れておく。但し、ここでは、日本語の「平和」を対象としたものを中心にし、辞書の類は除く。¹¹⁾

「平和」という言葉を対象とした分析でまず挙げるべきは、石田雄による平和を表わす語の意味比較であろう。石田(1968)は、古代ユダヤ教における「シャーローム (shālōm)」, ギリシャにおける「エイレーネ (eirene)」, ローマの「パックス (pax)」, 中国, 日本の「和平」, 「平和」, インドの「シャーンティ (śanti)」の意味の比較研究を行なっている。¹²⁾ その結果を図2に示す。

重点がおかれた意味 文化	神意 正義	繁 栄	秩 序	心の 静穏
古代ユダヤ教	shālōm シャーローム			
ギリシャ		eirene エイレーネ		
ローマ			pax パックス	
中国(日本)			和平 平和	
インド				śanti シャーンティ

図2 平和を表わす語の意味比較

出所：石田(1968) p. 35

石田によれば、平和を意味する上記の言葉は、それぞれ図2に示すように意味の重点が異なり、日本語の「平和」は、中国語の場合と同様、「国内における秩序あり混乱のない状態」と「心のみだされぬ状態」とに意味の重点があるとされる。石田は更に、中国語と比較した場合、日本語の「平和」は、より心情的、美的な要素を持つことを指摘している。¹³⁾

この分析は他言語ないしは文化との比較により、日本語の「平和」のもつひとつの特徴を浮彫りしたものであるが、飽くまで比較が主眼であるため、日本語の「平和」そのものについては、詳細な検討は加えられていない。多くの用例について立入って吟味すれば、後述のように日本語の「平和」には多様な意味的側面があることが判るはずである。実際、日本語の「平和」の意味の重点とされる「国内における秩序あり混乱のない状態」と矛盾する意味をもつ「平和」の用例も少なくないのである。

石田の分析は主として語の外延的、指示的意味を対象とするものであるが、これに対して語の内包的情緒的意味に焦点を絞ったものとしてはSD法を使った研究がある。SD法は多くの研究に使用されているが、「平和」という言葉そのものに関しては、世界の15の文化のティーンエイジャーを対象とした調査で、「平和」とそれに相当する語は、すべてプラスの価値を有する、即ち“望ましい、好ましい”という情緒的意味をもつという結果が報告されている。¹⁴⁾ また、Osgoodらの日本人、アメリカ人、フィンランド人の高校生を対象とした調査もある。この調査では、日本人高校生にとって「平和」は、「良い」、「弱い」そして「積極的な」ものと感じられていること、「平和」の情緒的意味（あるいは、情緒的意味空間上の位置）は、日本人高校生の場合、「女性」や「鳥」に近く、アメリカ人高校生の場合、「希望」や「真理」に、フィンランド人高校生の場合、「未来」や「パン」に近いことが明らかにされている。¹⁵⁾ しかし、日本人の場合でも、連想法によれば「平和」が、「希望」や「未来」と近いことは、後の表3などから明らかである。

“平和”を意味する言葉そのものを対象とした連想法による調査は外国では既に幾つか行なわれており、Cooper (1965), Ålvik (1968), Rosell (1968), Haavelsrud (1970), Ehly (1972), Hook (1979) などに結果が報告されている。いずれも児童を対象とした調査であり、厳密には連想法と言えぬものもある。中でもCooper (1965) は、日英の児童の「平和」に対する連想の比較を行なっている。Cooperは、「平和」に対する連想を、「休止、静止」、「争いのないこと」、「友好的活動」、「講和、和解」の4つのカテゴリーに分け、¹⁶⁾ 日本の児童では、「休止、停止」というカテゴリーに含まれる「心の平静」(peace of mind) といった個人的要素が弱いこと、「鳩」を連想する度合いが大きいことなどを指摘している。¹⁷⁾ また、対象は英語であるが、Deese (1965) には、“peace”という刺激語に対する標準的な反応語は“war”であることが示されている。¹⁸⁾

日本語の「平和」を扱った連想調査としては、梅本堯夫を中心とするグループにより

1959年、1962年の2度にわたって行なわれた調査がある。この調査結果はそれぞれ清水ほか(1967)、梅本(1969)として発表されている。このふたつの調査はいずれも「平和」だけを対象にしたものではないが、「平和」が刺激語に含まれている。

第一の調査は、京都市内の高校生約500名を対象に、1096語の名詞を刺激語として、それぞれについて動詞を最大3語、形容詞を最大2語答えさせるものであった¹⁹⁾。清水らは、反応度数の大きい反応語相互の連帯出現率にもとづいた因子分析を行ない、8個の因子を抽出し、刺激語のそれぞれについて因子得点を計算している。「平和」についてみると、「快樂の評価」、「快の感情」を含む因子²⁰⁾の因子得点²¹⁾が大きい。この理由は明らかではないが、「平和」に、「快の感情」、「快い」といった情緒的意味が含まれる可能性を示唆する調査結果と受け取っておくべきであろう。

第二の調査は、京都の大学生1000名(但し一部奈良の大学生を含む)を対象に、「平和」を含む210語を刺激語として、1語を答えさせるという形で行なわれたものである²²⁾。「平和」に関する結果は、後に、本稿のために行なった調査の結果との比較に際して述べる。

なお、連想調査ではないが、高田(1983)によれば、学生を対象とし、選択肢を与えて平和イメージを探る試みも行なわれているが、本稿執筆時には、報告はまだ準備中のようである。

最後に、意味の問題とは関係ないが、「平和」という語がどの程度用いられるかについて、参考までに簡単に述べておく。話し言葉に関しては全くデータがないが、書き言葉については、国立国語研究所のふたつの調査がある。1956年の雑誌90種の調査結果によれば、「平和」は100万語に約144回の割合で用いられると言う²³⁾。1966年の『朝日』、『毎日』、『読売』3紙朝夕刊1年分のサンプリング調査によれば、「平和」の使用率は、100万語に約90回である²⁴⁾。因みに、英語の“peace”は、100万語に約76回の使用率であるというデータがある²⁵⁾。

2. 連想調査の概要

本稿の対象となる連想調査の概要は次のとおりである。

調査時点 1982年9月, 10月(一部6月)

調査地点 広島市, 山口市, 福岡市

被験者 大学生(一部短大生)

被験者数 962名

被験者の地域別, 性別による内訳は表1に示すとおりである。

表1 被験者の地域別, 性別内訳

	男	女	計*
広島	310	65	380
山口	262	83	349
福岡	122	111	233
計	694	259	962

*性別不明(総計9名)を含む。

次に, 調査の方法であるが, 学生の所属学部, 専攻による偏りをできるだけ排除するため, 一般教養課程の英語の授業の一部を割いて行なった。形式としては, 「平和」という言葉を聞いて頭に浮ぶ言葉をいくつでもよいから答えさせるという形式を用いた。制限時間は5分とした。このように反応語の数を制限しなかったのは, 「平和」と何らかの関わりを持つ言葉を可能な限り網羅することが, 研究の現段階では重要と判断したからである。

上述のような調査の結果の解釈に際してまず留意すべきは, 標本の偏りという問題であろう。第一に, そもそも学生という集団を, 「平和」の意味に関して, ひとつの等質な,

しかも他の社会階層や集団と区別して扱う意味のある集団と見なしうるかという問題がある。これは別としても、今回の調査の母集団を“学生”とした時、標本に偏りをもたらさうる要因は幾つか考えられる。その主なものは、調査地点が広島、山口、福岡であること、調査時点が、第2回国連軍縮特別総会の開催や内外の反核運動の昂揚が喧伝された時期であること、表1から明らかなように、男女の性比が大きく偏っていることの3点である。地域と時点というふたつの要因による偏りについて考えるため、今回の調査と、1962年京都を中心に行なわれた梅本らによる調査（以下、梅本1962と略称）を比較してみよう。梅本らによる調査では、反応語が1語に制限されているので、今回の調査と直接比較はできないが、今回の調査で被験者が最初に答えた単語と梅本らの調査結果を比較してみる。被験者総数はふたつの調査でほぼ同数なので、いずれかの調査で反応度数10以上の、即ち10人以上の被験者が反応した、単語を選ぶ。今回の調査については、上述のように、被験者が最初に答えた単語だけを対象とする。こうして選んだ単語の反応度数を比較したのが表2である。²⁶⁾ 表2には、ふたつの調査における各語の反応率の類似度を示す尺度が寄与率として与えられている。

全体として見れば、表2に与えた15語に関しての語彙の類似度Sは、 $S=0.4868$ となりきわめて大きい。²⁷⁾ 表2に掲げない他の反応語について、ふたつの調査で共通する反応語がひとつもないと仮定してもSの値は、 $S=0.1937$ であり、²⁸⁾ この値もこの種のデータとしては大きい。²⁹⁾ 従って、全体として見れば、ふたつの調査に大きな差はなく、むしろ共通性が高いと言うべきであろう。このことは、合計すれば半数以上の被験者が反応している上位3語、即ち「戦争」、「鳩」、「広島」をとって見ても直観的に首肯されるであろう。勿論、表2から明らかなように、ふたつの調査で明らかに反応率の異なる単語もある。「世界」、「ピース」、³⁰⁾ 「幸福」、「自由」、「平和公園」、「良い」、「麻雀」、「望む」、「憲法9条」の各語がそうである。これらの単語の幾つかについては、ふたつの調査における差異を、調査地域、調査時点（あるいは世代）の差異に帰すべきものもある。例えば、「平和公園」などその明らかな例であろう。

このように調査時点、地域、あるいは男女比などが結果に偏りをもたらす可能性もあるが、本稿ではそのような可能性があることを指摘するにとどめ、以下この点には立入らない。

表 2 梅本らによる調査(梅本 1962)との比較

	梅本 1962		松尾 1982		寄与率**
	反応度数	反応率(%)*	反応度数	反応率(%)*	
戦 争	209	21.02	281	29.02	0.2069
鳩	256	25.75	229	23.80	0.2378
広 島	64	6.43	56	5.82	0.0581
世 界	46	4.62	3	0.31	-0.0095
日 本	27	2.71	18	1.87	0.0183
ピ ー ス	27	2.71	0	0.00	-0.0135
幸 福	2	0.20	26	2.70	-0.0051
原 爆	20	2.01	15	1.55	0.0154
自 由	7	0.70	20	2.07	0.0052
平和公園	0	0.00	16	1.66	-0.0083
良 い	14	1.40	0	0.00	-0.0070
麻 雀	0	0.00	11	1.14	-0.0057
愛	5	0.50	11	1.14	0.0043
望 む	10	0.10	0	0.00	-0.0050
憲法9条	0	0.00	10	1.03	-0.0051

* 反応率=(反応度数/被験者総数)×100, 被験者総数:梅本1962=994名(1000名中6名反応なし), 松尾1982=962名

** 寄与率=(反応率の相乗平均)- $\frac{1}{2}$ (反応率の差の絶対値), 小数第5位切捨。

上述の調査の結果の概要は次のとおりである。

反応語延べ数 6,201 (語)

反応語種類数 1,395 (語)

被験者一人当り反応語数 6.446 (語)

反応語の処理に当っては、テキスト語彙処理プログラムLEXを用いた。³¹⁾ 反応語については、「ハト」と「鳩」など表記の異なるものと、「9条」と「憲法9条」など一方が明らかに略称であるものについては表記を統一し、同一の反応語の(タイプ)と見なした。上記の数値は、この処理を行なった後のものである。被験者が全体としてどのような語を回答したかを示すため、附表1に全反応語のアイウエオ順リストを与えておく。また、表3には、地域別、性別の反応度数、反応率を加えて、反応度数10以上の、即ち全体で被験者10人以上が回答した、単語90語を、頻度順に示す。

表3をもとに、地域、性による比較を試みることも興味ある課題であるが、本稿では割愛する。ここではまず、前述のように、このデータをもとに日本語の「平和」の意味の構成要素を探ることにする。

表3 反応度数順リスト

	全 体	地 域			性 別**	
		広 島	山 口	福 岡	男	女
戦 争	577 (59.9)	224 (58.9)	218 (62.4)	135 (57.9)	397 (57.2)	175 (67.5)
鳩	499 (51.8)	179 (47.1)	202 (57.8)	118 (50.6)	326 (46.9)	165 (63.7)
広 島	286 (29.7)	113 (29.7)	120 (34.3)	53 (22.7)	201 (28.9)	82 (31.6)
原 爆 ⁽¹⁾	191 (19.8)	74 (19.4)	79 (22.6)	38 (16.3)	112 (16.1)	76 (29.3)
長 崎	147 (15.2)	44 (11.5)	59 (16.9)	44 (18.8)	91 (13.1)	56 (21.6)
幸 福	133 (13.8)	46 (12.1)	59 (16.9)	28 (12.0)	82 (11.8)	51 (19.6)
日 本	107 (11.1)	35 (9.2)	46 (13.1)	26 (11.1)	92 (13.2)	15 (5.7)
自 由	100 (10.3)	29 (7.6)	41 (11.7)	30 (12.8)	69 (9.9)	31 (11.9)
愛	99 (10.2)	27 (7.1)	40 (11.4)	32 (13.7)	65 (9.3)	34 (13.1)
憲 法 ⁽²⁾	69 (7.1)	14 (3.6)	39 (11.1)	16 (6.8)	52 (7.4)	17 (6.5)
平 和 公 園 ⁽³⁾	66 (6.8)	47 (12.3)	18 (5.1)	1 (0.4)	48 (6.9)	18 (6.9)
国 連	61 (6.3)	13 (3.4)	37 (10.6)	11 (4.7)	50 (7.2)	10 (3.8)
核	55 (5.7)	28 (7.3)	21 (6.0)	6 (2.5)	43 (6.1)	12 (4.6)
世 界 隊	49 (5.0)	12 (3.1)	27 (7.7)	10 (4.2)	27 (3.8)	22 (8.4)
自 衛 隊	48 (4.9)	13 (3.4)	27 (7.7)	8 (3.4)	39 (5.6)	9 (3.4)
核 兵 器	47 (4.8)	21 (5.5)	17 (4.8)	9 (3.8)	31 (4.4)	16 (6.1)
麻 雀 園	42 (4.3)	20 (5.2)	17 (4.8)	5 (2.1)	41 (5.9)	1 (0.3)
公 園	41 (4.2)	31 (8.1)	8 (2.2)	2 (0.8)	35 (5.0)	6 (2.3)
憲 法 9 条 ⁽⁴⁾	39 (4.0)	22 (3.1)	17 (4.8)	10 (4.2)	32 (4.6)	7 (2.7)
希 望	38 (3.9)	12 (3.1)	19 (5.4)	7 (3.0)	25 (3.6)	12 (4.6)
安 ら ぎ	37 (3.8)	16 (4.2)	12 (3.4)	9 (3.8)	22 (3.1)	15 (5.7)
自 然	34 (3.5)	6 (1.5)	19 (5.4)	9 (3.8)	19 (2.7)	15 (5.7)
家 庭	33 (3.4)	11 (2.8)	14 (4.0)	8 (3.4)	17 (2.4)	16 (6.1)
日 米 安 保 ⁽⁵⁾	33 (3.4)	13 (3.4)	14 (4.0)	6 (2.5)	29 (4.1)	4 (1.5)
核 廃 絶 ⁽⁶⁾	31 (3.2)	8 (2.1)	17 (4.8)	6 (2.5)	21 (3.0)	9 (3.4)
軍 縮 ⁽⁷⁾	29 (3.0)	13 (3.4)	13 (3.4)	3 (1.2)	21 (3.0)	7 (2.7)
青 空	28 (2.9)	11 (2.8)	13 (3.4)	4 (1.7)	14 (2.0)	14 (5.4)
安 心	28 (2.9)	12 (3.1)	12 (3.4)	4 (1.7)	20 (2.8)	8 (3.0)
鐘	27 (2.8)	12 (3.1)	10 (2.8)	5 (2.1)	14 (2.0)	13 (5.0)
白 ⁽⁸⁾	27 (2.8)	14 (3.6)	7 (2.0)	6 (2.5)	16 (2.3)	9 (3.4)

* 数値は反応度数，()内には，反応率(反応率=反応度数/当該の被験者総数)を百分比で示す。小数第2位切捨。

** 性別不明分があるので，男女合計は必ずしも全体と等しくならない。

(1) 「原子爆弾」を含む。(2) 「日本国憲法」，「新憲法」を含む。(3) 「記念公園」，「原爆記念公園」，「平和記念公園」，「広島平和公園」を含む。(4) 「9条」，「第9条」を含む。

(5) 「安保」，「安保条約」を含む。(6) 「核兵器廃絶」を含む。(7) 「軍備縮小」を含む。

(8) 「白色」を含む。

	全 体	地 域			性 別	
		広 島	山 口	福 岡	男	女
子 供	26 (2.7)	6 (1.5)	15 (4.2)	5 (2.1)	18 (2.5)	8 (3.0)
人 類	26 (2.7)	10 (2.6)	9 (2.5)	7 (3.0)	14 (2.0)	12 (4.6)
ア メ リ カ ⁽¹⁾	25 (2.5)	7 (1.8)	14 (4.0)	4 (1.7)	21 (3.0)	3 (1.1)
平 等	23 (2.3)	6 (1.5)	11 (3.1)	6 (2.5)	15 (2.1)	8 (3.0)
家 族	22 (2.2)	3 (0.7)	14 (4.0)	5 (2.1)	13 (1.8)	9 (3.4)
理 想	22 (2.2)	7 (1.8)	12 (3.4)	3 (1.2)	15 (2.1)	7 (2.7)
永 遠	21 (2.1)	4 (1.0)	7 (2.0)	10 (4.2)	11 (1.5)	10 (3.8)
地 球	21 (2.1)	8 (2.1)	10 (2.8)	3 (1.2)	14 (2.0)	7 (2.7)
平 穩	21 (2.1)	8 (2.1)	11 (3.1)	2 (0.8)	13 (1.8)	8 (3.0)
ソ 連	20 (2.0)	8 (2.1)	8 (2.2)	4 (1.7)	19 (2.7)	1 (0.3)
緑	20 (2.0)	7 (1.8)	7 (2.0)	6 (2.5)	11 (1.5)	9 (3.4)
民 主 主 義	20 (2.0)	5 (1.3)	10 (2.8)	5 (2.1)	14 (2.0)	6 (2.3)
田 舎	19 (1.9)	4 (1.0)	14 (4.0)	1 (0.4)	17 (2.4)	2 (0.7)
未 来	19 (1.9)	5 (1.3)	10 (2.8)	4 (1.7)	9 (1.2)	10 (3.8)
夢	19 (1.9)	8 (2.1)	8 (2.2)	3 (1.2)	12 (1.7)	7 (2.7)
安 全	18 (1.8)	6 (1.5)	9 (2.5)	3 (1.2)	11 (1.5)	7 (2.7)
人 類	18 (1.8)	5 (1.3)	8 (2.2)	5 (2.1)	16 (2.3)	2 (0.7)
反 核	18 (1.8)	9 (2.3)	5 (1.4)	4 (1.7)	16 (2.3)	2 (0.7)
笑 顔	17 (1.7)	3 (0.7)	13 (3.7)	1 (0.4)	13 (1.8)	4 (1.5)
穩 や か	17 (1.7)	5 (1.3)	10 (2.8)	2 (0.8)	10 (1.4)	7 (2.7)
条 約	17 (1.7)	4 (1.0)	13 (3.7)	0 (0.0)	14 (2.0)	3 (1.1)
戦 争 放 棄	17 (1.7)	5 (1.3)	6 (1.7)	6 (2.5)	12 (1.7)	5 (1.9)
安 定	16 (1.6)	4 (1.0)	9 (2.5)	3 (1.2)	7 (1.0)	9 (3.4)
現 在	16 (1.6)	4 (1.0)	6 (1.7)	6 (2.5)	14 (2.0)	2 (0.7)
非 核 三 原 則	16 (1.6)	2 (0.5)	10 (2.8)	4 (1.7)	12 (1.7)	4 (1.5)
友 好	16 (1.6)	3 (0.7)	10 (2.8)	3 (1.2)	13 (1.8)	3 (1.1)
原 爆 ド ー ム	15 (1.5)	6 (1.5)	7 (2.0)	2 (0.8)	12 (1.7)	3 (1.1)
静 か	15 (1.5)	5 (1.3)	7 (2.0)	3 (1.2)	18 (1.1)	7 (2.7)
終 戦	15 (1.5)	5 (1.3)	8 (2.2)	2 (0.8)	14 (2.0)	1 (0.3)
侵 略	15 (1.5)	5 (1.3)	7 (2.0)	3 (1.2)	13 (1.8)	2 (0.7)

(1) 「米国」を含む。

	全 体	地 域			性 別	
		広 島	山 口	福 岡	男	女
太 陽	15 (1.5)	4 (1.0)	9 (2.5)	2 (0.8)	9 (1.2)	5 (1.9)
願 い	15 (1.5)	5 (1.3)	6 (1.7)	4 (1.7)	9 (1.2)	6 (2.3)
反 戦	15 (1.5)	10 (2.6)	4 (1.1)	1 (0.4)	13 (1.8)	2 (0.7)
幸 せ	14 (1.4)	4 (1.0)	8 (2.2)	2 (0.8)	7 (1.0)	7 (2.7)
終戦記念日 ⁽¹⁾	14 (1.4)	3 (0.7)	9 (2.5)	2 (0.8)	11 (1.5)	3 (1.1)
戦 後	14 (1.4)	8 (2.1)	6 (1.7)	0 (0.0)	9 (1.2)	5 (1.9)
核 戦 争	13 (1.3)	6 (1.5)	4 (1.1)	3 (1.2)	11 (1.5)	2 (0.7)
教科書問題	13 (1.3)	5 (1.3)	5 (1.4)	3 (1.2)	11 (1.5)	2 (0.7)
国 家	13 (1.3)	6 (1.5)	5 (1.4)	2 (0.8)	11 (1.5)	2 (0.7)
死	13 (1.3)	4 (1.0)	6 (1.7)	3 (1.2)	10 (1.4)	3 (1.1)
花 ⁽²⁾	13 (1.2)	3 (0.7)	7 (2.0)	3 (1.2)	5 (0.7)	8 (3.0)
平和記念像 ⁽³⁾	12 (1.2)	2 (0.5)	4 (1.1)	6 (2.5)	8 (1.1)	4 (1.5)
友 情	12 (1.2)	4 (1.0)	5 (1.4)	3 (1.2)	11 (1.5)	2 (0.7)
冷 戦 ⁽⁴⁾	12 (1.2)	6 (1.5)	4 (1.1)	2 (0.8)	11 (1.5)	1 (0.3)
海	11 (1.1)	1 (0.2)	7 (2.0)	3 (1.2)	8 (1.1)	3 (1.1)
運 動	11 (1.1)	6 (1.5)	4 (1.1)	1 (0.4)	9 (1.2)	2 (0.7)
協 力	11 (1.1)	1 (0.2)	6 (1.7)	4 (1.7)	7 (1.0)	4 (1.5)
静 け さ ⁽⁵⁾	11 (1.1)	4 (1.0)	6 (1.7)	1 (0.4)	7 (1.0)	4 (1.5)
信 頼	11 (1.1)	2 (0.5)	6 (1.7)	3 (1.2)	7 (1.0)	4 (1.5)
戦 争 が ない	11 (1.1)	3 (0.7)	4 (1.1)	4 (1.7)	5 (0.7)	6 (2.3)
天 皇	11 (1.1)	5 (1.3)	3 (0.8)	3 (1.2)	8 (1.1)	3 (1.1)
反 核 運 動	11 (1.1)	2 (0.5)	9 (2.5)	0 (0.0)	7 (1.0)	4 (1.5)
和	11 (1.1)	3 (0.7)	3 (0.8)	5 (2.1)	5 (0.7)	6 (2.3)
8 月 6 日	11 (1.1)	8 (2.1)	3 (0.8)	0 (0.0)	7 (1.0)	4 (1.5)
祈 り	10 (1.0)	5 (1.3)	4 (1.1)	1 (0.4)	3 (0.4)	7 (2.7)
教 育	10 (1.0)	4 (1.0)	4 (1.1)	2 (0.8)	8 (1.1)	2 (0.7)
象 徴	10 (1.0)	3 (0.7)	3 (0.8)	4 (1.7)	6 (0.8)	4 (1.5)
静 寂	10 (1.0)	3 (0.7)	5 (1.4)	2 (0.8)	7 (1.0)	3 (1.1)
ピ ン フ	10 (1.0)	2 (0.5)	4 (1.1)	4 (1.7)	0 (1.4)	0 (0.0)
喜 び	10 (1.0)	2 (0.5)	7 (2.0)	1 (0.4)	6 (0.8)	4 (1.5)

(1) 「8月15日」を含む。

(2) 「花々」を含む。

(3) 「記念像」を含む。

(4) 「冷たい戦争」を含む。

(5) 「静かさ」を含む。

3. 調査データの処理

「平和」の意味の構成要素を探るため、前節で述べた調査結果を以下のような方法で処理した。データの処理は、大ざっぱに言って、次の3つのステップに分れる。

- (i) 「平和」の意味の理解に関する限りでは、反応度数が重要度に比例するとの仮定のもとに、反応度数の大きい語を選び、相互の相関を求める。
- (ii) この相関のもとに、選んだ反応語相互の位置関係ないしは相互的配置を明らかにする。
- (iii) この相互的配置における反応語(群)間の対立および近接関係を規準として、「平和」の意味因子を抽出する。

これは、基本的には、反応語相互の関係、特に対立および近接関係から、「平和」の意味の構成要素を抽出するという方法である。上述の最初のふたつのステップは、それなりに興味があるとしても、本稿の目的からすれば最後のステップのための準備段階である。以下各ステップにおける処理とその結果について述べる。

まず、最初のステップであるが、反応度数が重要度の指標であるという上述の仮定が成立するという保証はない。しかし、これに代る指標が存在しない以上、差当り反応度数を指標とせざるを得ない。そこで、表3の反応度順リストから、度数17以上の52語を選んだ。このうち「麻雀」は、「平和」と同綴異語である「^{ピンフ}平和」に対する反応と考えられるので、これを除く51語を対象とした。次にこの51語相互の関係を考えることになるが、51語相互の関係を直接扱うことは数が多すぎて無理なので、51語を幾つかのグループに分けることを考える。まず51語相互について、その共出現関係にもとづいて、ユールのQ³²⁾を算出した。単語X、単語Yの反応度をそれぞれ F_x, F_y 、XとYの共出現度数(この場合XとYとともに回答した被験者数)を C_{xy} 、被験者総数をNとすると、ユールのQは次式で与えられる。³³⁾

$$Q = \frac{NC_{xy} - F_x F_y}{NC_{xy} - F_x F_y + 2(F_x - C_{xy})(F_y - C_{xy})}$$

上記51語相互についてユールのQを算出すると、51×51のユールのQ行列が得られる。³⁴⁾これを付表2に示す。

クラスター
番号

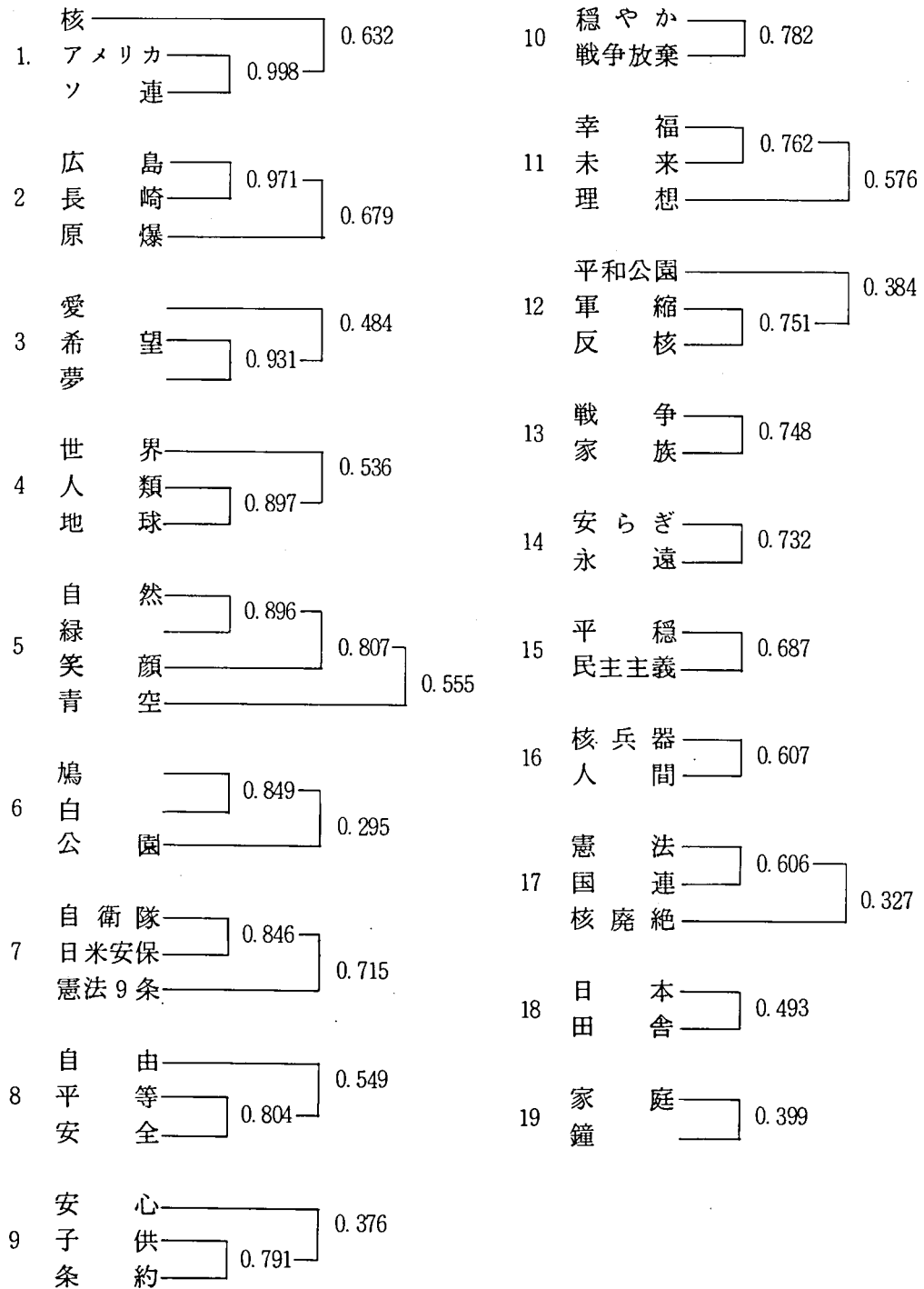


図3 ユールのQを用いた最遠隣法によるクラスター分析結果

(数値はユールのQの値を示す。付表2参照)

51語をグルーピングするため、このQ行列を用いて最遠隣法によるクラスター分析を行なうと、³⁵⁾ 19個のクラスターが得られた。この結果を図3に示す。図3に示した結果は、51の単語がすべて、どれかのクラスターに入った段階でクラスタリングを打ち切ったものである。

図3から明らかなように、得られたクラスターの半数以上は常識的に見ても納得できるものである。しかし、「穏やか」と「戦争放棄」(クラスター10)、「子供」と「条約」(クラスター9)、「家庭」と「鐘」(クラスター19)など意味の判然としないクラスターも少なくない。³⁶⁾ それゆえ、次の方法により、この結果をグルーピングし直した。

- ① 図3のクラスター1～8, 12, 14, 17は、基本的には残す。
- ② これ以外のクラスターに属する単語は、その単語とのユールのQの値が最大となる単語の属するクラスターに所属させる。
- ③ ②によっても解釈の難しいものは、別のクラスターに移動させるか、新たなクラスターを作る。

この結果、次の13のグループを得た。名称は参照の便のため筆者がつけたものであり、各グループに所属する単語の後につけた*印は上記②によるグルーピング、**印は③によるグルーピングを示す。なお、「幸福」、「未来」、「理想」から成るクラスターと「愛」、「希望」、「夢」から成るクラスターは、最遠隣法によっても②によっても別個の独立したクラスターであるが、意味が近いと判断してひとつのグループに統合した。以下各グループとそのメンバーを示す。

- “戦争” …… 「戦争」
- “(平和) シンボル” …… 「鳩」、「白」、「公園」、「平和公園」、「鐘」
- “原爆” …… 「広島」、「長崎」、「原爆」
- “幸福・愛” …… 「幸福」、「未来」、「理想」、「愛」、「希望」、「夢」
- “核軍拡” …… 「アメリカ」、「ソ連」、「核」、「核兵器*」、「日本*」、「条約*」
- “自由” …… 「自由」、「平等」、「安全」、「民主主義*」
- “平穏” …… 「安らぎ」、「安心*」、「永遠」、「人間*」、「穏やか**」、「平穏**」

- “憲法・国連” …… 「憲法」, 「国連」
- “争 点” …… 「自衛隊」, 「日米安保」, 「憲法9条」
- “自 然” …… 「自然」, 「緑」, 「笑顔」, 「青空」, 「田舎」*
- “反戦反核” …… 「軍縮」, 「反核」, 「核廃絶」*, 「戦争放棄」*
- “世 界” …… 「世界」, 「人類」, 「地球」
- “家 庭” …… 「家族」**, 「家庭」**, 「子供」**

ここで与えた各グループの名称は必ずしも適当なものではないが、差当りこの名称を使っておく。各グループの実質については、次節以降で検討する。参考までに各グループの反応度数を表4に示す。なお、表4に示したグループのいずれをも回答しなかった被験者は47名、全体の約5%である。

表 4 13グループの反応度数

	反 応 度 数*	反 応 率**
戦 争	577	59.9%
シ ン ボ ル	538	55.9
原 爆	368	38.2
幸 福 ・ 愛	257	26.7
核 軍 拡	215	22.3
自 由	137	14.2
平 穏	124	12.8
憲 法 ・ 国 連	117	12.1
争 点	96	9.9
自 然	94	9.7
反 戦 反 核	86	8.9
世 界	78	8.1
家 庭	76	7.9

* 各グループに属する単語のうち少なくともひとつを答えた被験者数。

** 反応率 = (反応度数 / 被験者総数) × 100, 小数第2位切捨。

表4を一瞥すれば、言葉のレベルにおいては、“戦争”、“平和のシンボル”、“広島、長崎における原爆被害”が、「平和」と非常に強力な連想を持つことは明らかである。比較すべき外国のデータはないが、後二者は、日本人の「平和」の連想のひとつの大きな特長と見なして差支えないであろう。このことが日本人の平和像において如何なる意味を持つかについては次節以下で触れることにして、ここではまず、この13のグループ相互の関係を考えて見よう。

このため、51語の場合と同じように13のグループ相互について、共出現関係にもとづいてユールのQを算出した。³⁷⁾ 結果を表5に示す。

以上で本節冒頭に掲げた最初のステップは終了する。このようにして求めたユールのQにより示される相関を用いて13のグループ相互の位置関係ないしは相互的布置を明らかにするのが次のステップである。このための方法としては、林の e_{ij} 型解析のような多次元尺度解析が最も望ましいが、³⁸⁾ここでは、方法としてはかなり乱暴であるが、表5の13×13のQ行列を使って因子分析するという方法をとった。因子分析法としては、所謂主成分分析法を用いた。³⁹⁾ 得られた因子負荷行列を第1因子、第2因子について表6に示す。

以上で本節冒頭に掲げた第2段階の作業がほぼ終わったので、次節以降で表5のデータにもとづいて、日本語の「平和」の意味を考える。

表 5 共出現にもとづく13グループ間のユールのQ

	戦争	核軍拡	憲法・国連	原爆	争点	シンボル	反戦 反核	自由	平穩	自然	幸福・ 愛	家庭	世界
戦争	1.000	0.211	0.250	0.163	-0.032	-0.078	-0.375	-0.092	0.021	-0.196	0.040	0.166	0.251
核軍拡	0.211	1.000	0.165	0.155	0.407	-0.055	-0.201	-0.182	-0.228	0.179	0.053	0.252	0.168
憲法・国連	0.250	0.165	1.000	0.214	0.585	0.169	0.322	-0.238	-0.459	-0.056	-0.230	-0.047	0.345
原爆	0.163	0.155	0.214	1.000	0.262	0.293	0.063	-0.277	-0.236	-0.382	-0.276	-0.139	-0.129
争点	-0.032	0.407	0.585	0.262	1.000	-0.241	0.230	-0.168	-0.051	-0.126	-0.248	0.002	-0.182
シンボル	-0.078	-0.055	0.169	0.293	-0.241	1.000	0.038	-0.264	-0.185	0.168	-0.089	0.099	-0.081
反戦反核	-0.375	-0.201	0.322	0.063	0.230	0.038	1.000	0.006	-0.095	-0.139	-0.361	-0.322	0.125
自由	-0.092	-0.182	-0.238	-0.277	-0.168	-0.264	0.006	1.000	0.180	0.126	0.362	0.225	-0.038
平穩	0.021	-0.228	-0.459	-0.236	-0.051	-0.126	-0.095	0.180	1.000	0.061	0.364	0.150	0.025
自然	-0.196	0.179	-0.056	-0.382	0.168	0.168	-0.139	0.126	0.061	1.000	0.101	0.480	0.137
幸福・愛	0.040	0.053	-0.230	-0.276	-0.139	-0.047	-0.322	0.225	0.150	0.480	1.000	1.000	0.542
家庭	0.166	0.252	-0.047	-0.139	0.002	0.099	-0.322	0.225	0.150	0.480	0.302	1.000	0.046
世界	0.251	0.168	0.345	-0.129	-0.182	-0.081	0.125	-0.038	0.025	0.137	0.542	0.046	1.000

数値は、 $Q = \{ NC_{xy} - F_x F_y \} / \{ NC_{xy} - F_x F_y + 2 (F_x - C_{xy}) (F_y - C_{xy}) \}$ の値を示す。

表 6 13グループの因子負荷量

	第 I 因子	第 II 因子
戦 争	- 0.037	0.558
シ ン ボ ル	- 0.199	0.037
原 爆	- 0.606	0.090
幸 福 ・ 愛	0.699	0.330
核 軍 拡	- 0.169	0.708
自 由	0.540	- 0.141
平 穩	0.559	- 0.160
憲 法 ・ 国 連	- 0.649	0.474
争 点	- 0.560	0.281
自 然	0.406	0.294
反 戦 反 核	- 0.440	- 0.357
世 界	0.177	0.526
家 庭	0.436	0.533

4. “消極的平和グループ”

前節で求めた13のグループ相互の関係を、表6に与えた因子負荷量をプロットして、視覚化したのが次の図4である。図4では参照の便を考慮して各グループの構成メンバーも表示してある。以下、図4を使って議論する。

本節と次節では、まず、13のグループについて、その特徴と他のグループとの関係、特に他のグループとの親疎遠近を個別的に検討する。

図4に示した13のグループは、差当り日本語の「平和」の意味を構成あるいは規定する要素、あるいは日本人の平和像というレベルで考えれば、日本人の平和像の構成要素と仮定することができる。これら仮の要素のそれぞれについて、「平和」の用例を参照しつつ検討していくのが本節と次節の狙いである。この作業により、第一に、より説得力ある要素を探り出すこと、第二に、日本語の「平和」について、その意味、あるいは場合により用法、の特質を明らかにすること、第三に、日本人の平和像の特質を、少なくともその一端を、明らかにすること、ができるであろう。

任意のグループについて、ここで特に着目するのは他のどのグループと近いのか、他のどのグループと遠いかという親疎遠近の問題である。グループ間における親疎遠近はここでは、図4におけるグループ間の(2次元空間上)の距離として定義できる⁴⁰⁾用語は適切とは言いが、簡便のため、ふたつのグループ間の距離が大きい場合を“対立”、小さい場合を“近接”と称することにする。他のグループとの対立近接関係に着目することにより、あるグループの特質が一層明らかにされようし、また日本語の「平和」の意味構造なり日本人の平和像の構造に、どのような対立軸や極が存在しうるかについての手掛りも得られるであろう。

以下、このよう観点から、13のグループについて個別的に検討するが、その前にここで用語について一言しておかなければならない。

本稿では、これまで、“「平和」の意味の構成要素”、“「平和」の意味因子”といった、言語学的には言うまでもなく、一般的に言っても、非常に漠然とした用語を、明確な概念規定なしに用いてきた。「平和」の意味を言語学的に、あるいは意味論的に解明すること自体は前述のように本稿の目的ではないので、必ずしも“意義素”、“示差的特徴”といった言語学の概念を援用する必要はないし、またここで問題にしている13のグループについて、このような概念が妥当するわけでもない⁴¹⁾ここで、“「平和」の意味の構成要素”、“意

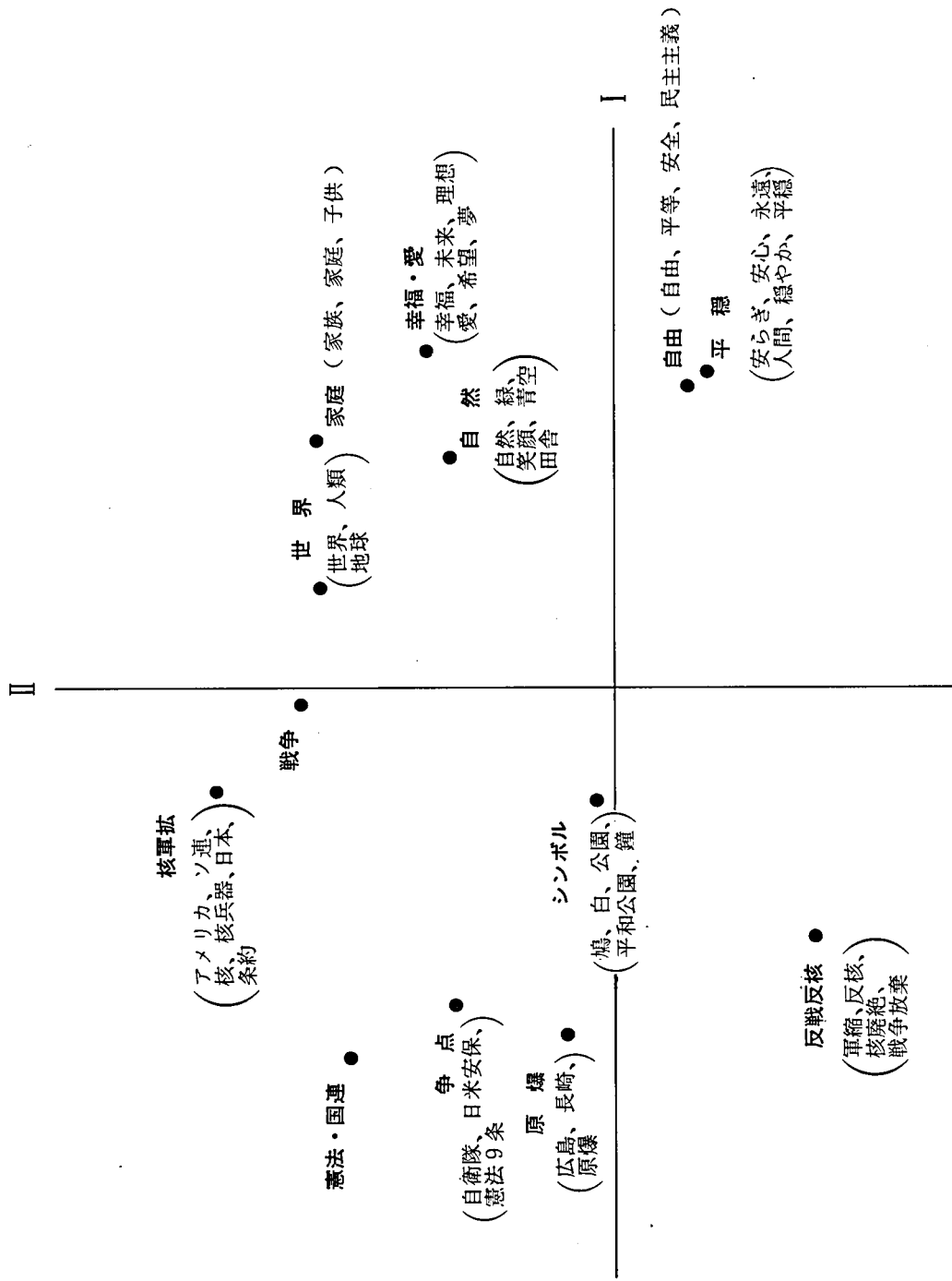


図 4 13グループの相互的位置
(()内は各グループに属する単語を示す。)

味因子”あるいは“意味要素”と言うのは、日本語の「平和」の意味の分析記述に当て必要にして十分な意味上の単位ないしは概念の意である。そして、“構成要素”と言うのは「平和」の意味、ひいては日本人の平和像が、このような単位の相互の関係、構造、として把握しうることを前提とした言い方である。以下、図4を参照しつつ、この意味での「平和」の意味の構成要素を個別的に検討する。ただ13のグループすべてについて詳述することは些か煩雑であるので適宜二、三のグループをまとめて論ずる。

まず、“戦争”というグループである。このグループは図の位置からも明らかなように、“核軍拡”と命名したグループときわめて近い。これは日本人にとって、少なくとも今日の学生にとって、戦争とはまず核戦争であることを意味するものと解釈できよう。また、“世界”というグループとの近接性を考慮に入れれば、戦争即ち世界戦争というイメージが強いと言ってもよからう。⁴²⁾

“戦争”、“核軍拡”というふたつのグループと最も遠いのは、“反戦反核”というグループと“平穏”というグループである。

“戦争”と“反戦反核”の対比からして、〈戦争がない〉という要素が「平和」の意味を構成するひとつの大きな要素であることは多言を要しまい。〈戦争がない〉ことは、国語辞書のほとんどが採用している定義でもあり、⁴³⁾また平和研究者の所謂“消極的平和”⁴⁴⁾の概念の中核を成すものでもある。

〈戦争がない〉は、「平和」の意味の重要な構成要素であるが、それだけに意味内容が特化され、限定される場合も少なくない。第一に、“核軍拡”と“反戦反核”との対比から明らかなように、〈核戦争がない〉、〈核の脅威がない〉という要素が強くなる場合がある。

〈核兵器がない〉という要素を〈戦争がない〉の下位範疇とすることの当否は別として、〈核兵器がない〉という要素が、現代における「平和」の意味なり平和像を論ずるとき、欠かせぬものであることは殊更云々する必要はあるまい。

第二に、〈戦争がない〉は、時間軸上の変化として捉えれば、〈戦争の終結〉、即ち、停戦、休戦、講和を意味しうる。しかし、日本語の「平和」の場合、より特殊な意味合いが加わることが観察される。単に休戦や停戦ではなく、それがたとえ敗戦——日本人はこれを「終戦」と言い換えたのだが——であったとしても、〈戦争の終結〉は、「平和」と表現される。このことは、次の用例からも明らかである。

1. 確かにラジオから流れる天気予報のアナウンスは、平和な時代への復帰の象徴的な事柄だったと言えよう。重々しい「大本営発表」や「東部軍管区情報」のアナウンスに代って、天気予報や娯楽放送が街に流れたのである。だが、天気予報の再開は、果して終戦からわずか三日目の「八月十七日」であつたらうか。

(柳田邦男 空白の天気図 p.423), (下線松尾, 以下同様。使用テキストについては、「用例出典」を参照。)

2. 戦争は終わったのだなーという安堵感と、平和とはやはりよいものだというくつろぎの気持ちを禁ずることはできなかった。

(東大十八史会編, 学徒出陣の記録 p.160)

事実としての敗戦が、一面平和の到来でもあったという心理は想像に難くない。この心理は、原爆の惨禍のさなかにあっても消え去ることはない。

3. 十二時近く五日市に着く。原爆のためガラスのこわれているのが目につく。しかし平和だ。

(学徒出陣の記録 p.143)

4. 十五日、終戦を私達は聞いた。(中略) 手も足も出ない、たくさん腐った魚を並べたような、この凄惨な光景を一目みたならば、何人たりとも完全な敗北を感じるのみである。

治癒はなかなか思わしくなかった。私は焼失を免れた母の家に帰ることにした。ゴム輪の車のふとんの上で、何年振りかによみがえった平和の姿に、私は懐しさにホロホロと涙を流した。

(原爆体験記 p.52)

用例 3, 4 は極端な例と言いうるかもしれないが、⁴⁵⁾ 用例 1 ~ 4 を通じて明らかなのは、平和と言う概念が相対的なものであるということである。より非平和的な状態の終結は、もとの非平和的な状態に比して相対的に“平和”なのである。敗戦も、極端な場合には原爆の惨禍すらも、それ以前の状態に比べれば相対的に“平和”だったのであろう。

第三に、〈戦争がない〉ことが空間的に限定されると、〈戦闘や戦火が我が身に及ばぬ〉という意味を持つ。そして、戦闘や戦火に巻込まれなければ、“平和”だと言う意識が生

まれる。

5. 戦乱続きの世というのに、この町だけが、二百五十年近く、兵火を知らない。平和に狎れていた。

(城山三郎 黄金の日々 p.7)

6. この薩摩半島の南端も、十九年夏には、米機来襲に備えて監視哨が設けられはしたが、まだ向う半年の平和があった。

(学徒出陣の記録 p.19)

この意味では、特攻隊員にも“平和”はあったし、原爆投下直前の広島朝にも“平和”はあった。⁴⁶⁾

7. 隣の室で「誰か故郷を思はざる」をオルガンで弾いてゐる者がある。平和な南国の雰囲気である。徒然なるままにれんげ摘みに出かけたが、今は捧げる人もなし。(中略)まして大和魂を代表する我々特攻隊員である。

(きけわだつみのこえ p.222)

8. いつもと同じように六時に飛び起きた。昨夕の空襲警報もどこへ去ったのかと思われるほど太陽は輝き、平和な朝に甦っていた。

(原爆体験記 p.202)

ここで挙げた、第二、第三の意味は、〈時間的あるいは空間的に戦闘、戦火に巻込まれていない〉という形でひとつにまとめることができる。

しかし、ここで一言しておかなければならないのは、その場合でも〈戦闘、戦火に巻込まれていない〉という意味での“平和”は、“自然”、“家庭”といったより積極的な価値によって補強されることが少なくないということである。例えば、用例3では我が家に帰り着いたという事実が背景にあるし、用例5では堺の経済的繁栄が背景にある。用例7、8では、美しい“自然”が背景にある。⁴⁷⁾

この〈時間的あるいは空間的に戦闘，戦火に巻込まれていない〉という概念は，前述の平和概念の相対性のひとつのヴァリエーションと考えることができる。即ち，時間空間上の他の点との比較において，相対的に“平和である”か否かが判断されるのである。ここに挙げた用例1～8は，比較の対象が明確な例であるが，この例のように明確ではないにしても，日本語の「平和」の意味を考えると，また日本人の平和像を考えると，このような相対性は一応念頭に置くべきことであろう。これに対して，「恒久平和」，「永久平和」，「絶対平和」という時空上の相対性を超えた概念もあるという反論もありえよう。しかし，ここでは，このような概念の絶対性，就中その修辭的魅力は，慣用的な相対性を前提としてはじめて成り立ちうることだけを指摘しておく。

“戦争”についての議論はこれでひとまず終わり，次に“憲法・国連”と言うグループに移る。このグループがどのような意味的要素を実現したものであるかは，単独で取上げる限り判然とししない。しかし，図における“憲法・国連”と“原爆”，“シンボル”というふたつのグループとの近接性から判断して，この3つのグループをまとめて，〈平和の拠り所〉という意味要素を抽出してもさほど大きな誤りとは言えまい。けだし，日本国憲法と原爆被爆に象徴される戦争体験のふたつが，しばしば，平和の，あるいは平和運動の，“原点”あるいは“拠り所”とされるからである。しかし，この3つのグループをひとまとめにするについては，“憲法・国連”と“原爆”の中間に位置する“争点”というグループが問題になる。これについては後に触れることにして，ここではこの3つのグループについて手短かに検討を加える。

まず，“憲法・国連”については，今のところ〈平和の拠り所〉という意味付け以上の解釈は無理であろう。ただ，このグループに属する「国連」の反応度数の大きさについては，裏付けとなるデータはないが，調査の3，4ヶ月前の第2回国連軍縮特別総会の影響が大きいとは言えるであろう。

次に，「広島」，「長崎」，「原爆」から成る“原爆”グループであるが，このグループが，第一に〈平和の拠り所〉という意味を持つことは言うまでもなからう。原爆被爆，より具体的には原爆による犠牲者に対するこのような意味付けは，次のような例に典型的に見ることができる。

9. 嗚呼，昭和二十年八月六日学徒動員作業中原爆により教官四名生徒三百八十二名平和の礎と

なる。

(広島女子高等師範学校・附属山中高等女学校殉国学徒の碑。原爆モニュメント碑文集 p.17)

10. 恵美ちゃんも私もみんな戦争のために女学生時代の夢を味わうこともなく一生めっちゃめっちゃに壊されてしまった。けれどこの尊い多くの犠牲者によって平和が築かれて行くのだったら、この上なくうれしくてならないのだけれど…。

(原爆体験記 p.201)

このグループは、第二に、〈原爆被爆〉、一般化すれば〈戦争の惨禍、被害〉という意味をもつ。これについては説明の要はなかろう。単語のレベルで、「原爆」と被害に関して言えば、「原爆」は被害との関連が強く、「核」はむしろ政治、軍事の文脈で使われる傾向があるという用法上の違いを指摘できよう。このことは、付表2に与えたユールのQの値から判断して、「核」が「日米安保」、「アメリカ」、「ソ連」、「軍縮」ときわめて高い相関を示すのに対し、「原爆」とこれらの単語との相関はさほど高くないことによっても裏付けられる。⁴⁸⁾

“原爆”というグループは、図4の位置からして、“自然”、“幸福・愛”と対比される。⁴⁹⁾ 実際、〈被害、惨禍〉と言う意味的要素がしばしば、“自然”、“幸福・愛”、とりわけ“自然”と対比されるのもこのグループのひとつの特徴である。このような対比は、次のような用例に見ることができる。また、前掲の用例8もこの対比の例とも解釈できる。

11. 「どうして火傷をしたのだろうか、警戒警報は解除になっていたから空襲じゃないし」あたまのなかを思いがめぐる。

自然が平和であればあるだけ、きのうのできごとが信じられないできごとのように思えてきます。

(原爆ゆるすまじ p.45)

12. 河原の方では、誰か余程元気な若者らしいものの、断末魔のうめき声がある。その声は八方に木霊し、走り廻っている。「水を、水を、水を下さい、……あぁ、……お母さん、……姉さん、……光ちゃん」と声は全身全霊を引裂くように迸り、「ウウ、ウウ」と苦痛に追いまくられる喘ぎが弱々しくそれに絡んでいる、——幼い日、私はこの堤を通過して、その河原に魚を獲りに来たことがある。その暑い一日の記憶は不思議にはっきりと残っている。砂原には

ライオン歯磨の大きな立看板があり、鉄橋の方を時々汽車が轟と通って行った。夢のように平和な景色があったものだ。

(原民喜 夏の花 p.134)

グループとしての“原爆”は、〈平和の拠り所〉、〈戦争の被害、惨禍〉というふたつの意味に加えて、第三の意味を持つ。「ヒロシマ・ナガサキ」、‘Euroshima’といった言葉使いに見られるシンボル、特に反核運動のシンボルとしての意味である。このことは図中の“原爆”と“シンボル”、“反戦反核”との近接性により確認されよう。

〈平和の拠り所〉という意味を持つ最後のグループである“シンボル”について問題となるのは、何のシンボルであるかという点である。このグループの図中の位置からして、原爆あるいは戦争の犠牲のシンボル、反戦あるいは反核のシンボル、反核運動あるいは原水禁運動のシンボルといった側面があることは確かだが、グループとしても、グループを構成する単語についても、漠然とした“平和”のシンボルという性格が強いことは否めない。⁵⁰⁾

以上、簡単に述べた如く、“憲法・国連”、“原爆”、“シンボル”の3つのグループからは差当り、〈平和の拠り所〉、〈原爆被爆〉、〈戦争被害〉、〈シンボル〉という4つの意味因子を抽出することができるであろう。ここで、次の問題は、先に触れた“争点”の位置、即ち“憲法・国連”、“原爆”と“争点”との関係である。

自衛隊、日米安保といった“平和問題”、“防衛問題”をめぐる議論において、憲法なり原爆体験に象徴される戦争体験が、論拠として、また自己の立場の正当性の源泉として、しばしば援用される。このことは、言語現象としては、“争点”と、“憲法・国連”、“原爆”との、“シntagマティックな (syntagmatic)”関係が⁵¹⁾反復強化されることを意味する。一言にして言えば、図における“争点”と“憲法・国連”、“原爆”との密接な関係は、このようなシntagマティックな関係の密接さを反映したものであるとすることができる。少なくとも、“パラダイグマティックな (paradigmatic)”関係にもとづくというより、むしろシntagマティックな関係にもとづくもの、と解釈できる。別の言い方をすれば、両者の密接さは、意味の“類似性”にもとづくというよりも、むしろ(言語表現における)“近接性”にもとづくものと言ってもよい。⁵²⁾

次に“反戦反核”というグループに移る。このグループと、“戦争”、“核軍拡”との対

比については既に述べた。しかし、このグループについては、〈戦争がない〉、〈核がない〉という意味要素に加えて平和運動、反戦運動、反核運動、原水禁運動を含めた〈運動〉という意味的要素も存在することを指摘できる。〈運動〉ないしは政治への参加は、しばしば“家庭”、“幸福”と対比される。これは、図4における“反戦反核”と“家庭”、“幸福”との距離からも明らかであるし、次のような用例にも見ることができる。

13. エンプラ賛成やら反対やら、核アレルギーがどうしたこうしたいうとって、そんなもんとまったく関係ないみたいなこういう連中こそ、ただもう平和にマイホーム主義に徹しとる人達こそ、実はもっとも強い戦争反対の気持ちもつとるとちやうか。なんにも言わんし、行動もせんけど、いざという時には、いちばんたよりになるとちやうか。

(野坂昭如 ゲリラの群れ p.355)

以上“戦争”から始めて“反戦反核”まで、各グループについて手短かに検討してきた。これまで扱ったグループはすべて、視覚的には、図4の縦軸の左側に位置するグループである。正確に言えば、第一因子の因子負荷量が負となるグループ群である。“戦争”、“核軍拡”、“憲法・国連”、“争点”、“原爆”、“シンボル”、“反戦反核”は、いずれも何らかの意味で〈戦争〉に関わるグループである。この意味で、“戦争”から“反戦反核”までを“消極的平和”に関わるグループと称することができよう。“消極的平和”グループは、個別的に“原爆”が“自然”と、“反戦反核”が“家族”、と対比されるばかりでなく、全体としても、“世界”から“平穏”に至るグループと対比される。⁵³⁾ 第一に、“消極的平和”グループは、第一因子の値、正確には第一因子の正負によって、“世界”から“平穏”に至るグループと截然と分かれるからであり、第二に、“世界”から“平穏”に至るグループは、意味内容の上で、“消極的平和”グループに比べ、相対的に“積極的”な平和の実質を表わすからである。

このようなふたつの大きなグループの対比については後に議論する。その前に、図4の縦軸の右側に位置するグループについて検討しておく。

5. “積極的平和”グループ

第一因子の値が正となる，“世界”，“家庭”，“幸福・愛”，“自然”，“自由”，“平穩”の6つのグループは，前節で検討した“消極的平和”グループと比較して，相対的に“積極的”な平和の実質を表わすグループである。この意味で，この6つのグループを“積極的平和”と総称する⁵⁴⁾。しかし，“積極的平和”グループから，“消極的平和”グループにおける〈戦争〉のような明確な共通因子を抽出することはできない。理由としては，差当り，ふたつ考えられる。ひとつは，“戦争の不在”を越えた平和の実質的内容に関してのイメージが，少なくとも被験者にとって，明確でないことであり，他のひとつは，平和の実質的内容それ自体が多様であるということである。いずれにせよ，“積極的平和”グループという形でまとめたとはいえ，内容的には，必ずしも明確な共通性を持つものではない。

以下，“平穩”から順に，図4では下から順に，各グループについて検討する。

“平穩”というグループには，「永遠」，「人間」という異質と思われる単語も含まれるが，グループ全体として見れば，〈平穩〉あるいは〈穏やか，静か〉という意味要素を反映したものであると言える。“平穩”が日本語の「平和」のひとつの特質であることは，第1節で紹介したように，石田（1968）の指摘するとおりである。学生を対象とした今回の調査では，さほど顕著ではないが，用例を見る限り，「平和」と〈穏やか，静か〉の結び付きは非常に強い。また，〈穏やか，静か〉は，辞書によれば，「平和」の本来の意味でもある⁵⁵⁾。このように，〈穏やか，静か〉は，「平和」の意味のきわめて重要な構成要素であるが⁵⁶⁾，単独で使われることは滅多になく，次の用例に見られるように，〈家庭〉，〈日常生活〉等，“積極的平和”グループに含まれる他の意味要素と共に使われることが圧倒的に多い。

14. 小皺一つない程その顔は艶々として，皮膚は女のそれのように白く，頬の辺りにほんのりと血の赤みが差していた。健康でもあるが，しかし健康のためばかりとは言えない平和な静まりがその表情の中には沈められていた。

（井上靖 澄賢房覚え書き p.129）

15. おまえもおとうさんぐらいの年になればわかりますよ。やがて去るものは日々になんとやらでね，平和で静かな毎日が訪れるようになる。

（井上ひさし 偽原始人 p.102）

16. どの家からも晩飯の煙が上り、家の外でカフェを煎るために焚火をしているのが真赤にゆらめいて見えた。平和な、のどかな村落の夕景色であった。

(石川達三 声なき民 p.241)

17. 安穩で平和な家庭の雰囲気や、炉辺の幸福と、芸術の女神は所詮気の合う性ではないのであろう。

(瀬戸内晴美 いずこより p.523)

〈戦争がない〉という意味要素の場合と同様、〈穏やか、静か〉についても、意味が特殊化、細分化されることがある。ひとつは、〈穏やか、静か〉より、ある意味ではより消極的な〈争い、事件がない〉という意味が強くなる場合である。例えば、次のような用例がその例である。

18. こんな平和な日々がつづいたある日、一つの事件が起きた。

(三浦綾子 石ころのうた p.263)

19. むしろ、「難破船長人喰事件」の一項を記入したくなるほど、記録すべき事件のほとんどない、平和な村なのですから。

(武田泰淳 ひかりごけ p.157)

第二は、やや極端な例だが、〈争い、事件がない〉が、〈無為、退屈〉に近づく場合である。

20. 生活の惰性の底に泥のような平和があった。

(石川達三 日蔭⁵⁷⁾)

21. 「あら、だって私ここんとこ退屈なのよ」

「退屈でも平和な方がいい」と私は決めつけた。

(赤川次郎 双子の家 p.66)

用例18～21を考慮に入れるとすれば、〈穏やか、静か〉とは別に、〈争い、事件がない〉という意味要素の存在を認めざるを得ない。従って、“平穩”グループからは、暫定的に

〈穏やか、静か〉、〈争い、事件がない〉というふたつの意味要素を抽出しておく。

“平穩”と最も近いのは、“自由”と命名したグループである。⁵⁸⁾ このグループは、「自由」、「平等」、「安全」、「民主主義」という4つの単語から成るが、共通の意味要素を抽出するのは困難である。そしてまた、“平穩”との近接性も説明困難である。何らかの共通の潜在的意味要素が存在するのかもしれないし、あるいは、そもそもグルーピング自体が適切でなかったとも考えられる。このグループについてここで言えることは、「自由」がしばしば「平和」と並置されるということだけである。例を次に掲げる。

22. 生命をかけて真実と自由と平和を守り抜くことが生き残った私どもの義務であります。

(学徒出陣の記録 p.96)

23. 勝利を信じ、あの時死んだ人は本当に幸福だったろうか。今の私はそうは思わない。彼らは真の平和と自由をまったく知らずに死んだ。

(中条一雄 私のヒロシマ原爆 p.75)

次に、“自然”というグループに移る。このグループについては、〈自然〉と言う意味要素を指摘しておけば十分であろう。この〈自然〉は、言うまでもなく、先に掲げた用例7, 11, 16や、次の用例に見られるような、飽くまで穏やかな“自然”である。この意味での〈自然〉は、Hook (1979) の“pastoral”と言うカテゴリーに近い。⁵⁹⁾

24. オレ、なんかね、妙にしあわせな気持ちになっちゃってね、のどかな田園風景なんか思い浮かべちゃったりしてね。平和なもんよ。

(つかこうへい 初級革命講座 飛龍伝 p.98)

25. そしてこの人はいつか退職されたら平和な故郷の農村で花鳥風月を楽しみたい希望を持っていないのではないかと想像した。

(井伏鱒二 多基古村 p.112)

“自然”と最も近接するのが、“幸福・愛”というグループである。“幸福・愛”は、量的には“積極的平和”グループの中心をなす。⁶⁰⁾そして、このグループは“自由”とともに

最も抽象度が高い。このグループを単独で考える限り、共通の意味要素を抽出することは難しい。せいぜいのところ〈幸福〉と言う要素を抽出しうるだけである。これは、このグループの中では、「幸福」が量的に圧倒的に重要な地位を占め⁶¹⁾、そして、実際の用例においても「平和」との結びつきが強いことによる。後者は、次のような用例によって例証されよう。

26. でも私の苦しみは後に生きる人たちの喜びに変わって、幸福と平和がこの地上におとずれるでしょう。

(つかこうへい 出発 p.246)

27. 「ご家族の平和と幸せをお守りする」ってやつだ。

(日下圭介 蝶たちは今… p.56)

この“幸福・愛”グループについては、さらに〈愛〉といった意味要素も考えることができる。しかし、後述のような“家庭”との結びつきの強さを考えると、この“愛”は、“人類愛”といった普遍主義的な“愛”ではなく、家族、夫婦、あるいは男女の関係に適用される、個人的、私的な“愛”と考えざるを得ない。また、このグループに属する「希望」、「未来」、「夢」、「理想」に着目して、〈希望〉と言った要素を考えることもできる。「平和」という言葉が、敢えてユートピア性⁶²⁾とは言わないまでも、未来志向性を持つことは確かだからである。“戦争”の議論において触れた“平和”の相対性という概念がここでも妥当する。ありうべき好ましい将来あるいは未来は、現在の状態と比較して、当然のことながら相対的に“平和”であるからである。また、〈希望〉という意味要素に関し、「平和」の情緒的意味が「希望」や「未来」に近いという調査結果もあることは、既に第1節で述べた通りである。

情緒的内包的意味に関して言えば、この“幸福・愛”というグループは、他のどのグループと比べても、“よい、好ましい”という情緒的内包的意味が強い。善悪、好悪といった二者択一的な情緒的意味を伴う言葉が、本来の指示的意味を失ない、情緒的意味だけが肥大化した形で使われる傾向が強いことは一般意味論の指摘するところである。ナチズムの用語は極端な例としてしばしば引用されるが、ヒトラーの認めるものはすべて“Aryan”

であり、そうでないものはすべて“non-Aryan”であった。日本人もメキシコ人も“Aryan”なら、年間130～140個の卵を生む鶏も“Aryan”であり、ライオンも“Aryan”であった。⁶³⁾ここでは、“Aryan”は、単に“好ましい”という情緒的意味を表わすにすぎない。「平和」に関しても、このように“好ましい”という情緒的意味が極大化した例を少なからず見ることができる。これは、企業、商店、事業所名に「平和」を冠した場合に典型的に見ることができる。昭和58年5月1日発行の『50音別広島市電話帳』によれば、次のような例がある。(名称の先頭の「平和」は～で示す。)

～印章、～運送、～英数学院、～園、～カミソリ、～ガレージ、～化工、～化熱工業所、～解体工業、～機械工作所、～工装、～工房、～広告、～サービスステーション、～紙業、～地所、～住宅相談所、～重機、～書房、～商会、～商事、～情報システム、～食堂、～食品工業所、～精版印刷、～整形美容外科、～設計、～繊維、～荘、～総合保険センター、～地下開発、～治療院、～通信機、～店舗測量、～電機、～電子工業、～動力工業、～堂、～堂玩具、～の店、～ビル、～美術印刷、～美術写真印刷、～文化出版社、～ボート、～マネキン、～鍍金工業、～木材、～木工、～薬品、～湯

この数の多さは、広島という都市の地域性を反映したものと思われるが、⁶⁴⁾「平和」の“好ましい”という情緒的意味が極大化して、単なるプラス・シンボルとして使われると言う現象は他の地域でも多かれ少なかれ見られる現象であり、日本語の「平和」のもつひとつの特質と言えるであろう。世界の様々な文化において、「平和」に相当する語がプラスの価値を持つと言う調査結果については、先に第1節で触れたが、日本語の「平和」の場合、“好ましい”という情緒的意味に重点が置かれる度合いが、はるかに大きいように思われるのである。

最後に残ったふたつのグループ“家庭”と“世界”は、ともに“平和”が成立し、持続し、あるいは破壊される範囲、領域に関わるグループである。ここで注目すべきは、「平和」の意味における家族、家庭の重要性である。“家庭の平和”に言及する用例は、枚挙に暇がないが、ここではふたつだけ挙げておく。

28. そのころ、母はまた二度目の結婚をし隣問屋に嫁いでいたが、文子はその家に入ったので家庭の平和が乱れた。

(松本清張 朴烈大逆事件 p.159)

29. 二カ年ほど寮の生活をして、諸氏の御同情を得て、後妻を貰い疎開先から長男を呼び返し、今日では事務所構内にて平和な家庭を建設して日々職務に精励しています。

(原爆体験記 p.191)

この“家庭”というグループから、差当り〈家庭〉という意味要素を引き出すことに特に問題はあるまい。“家庭”というグループは、“幸福・愛”および“平穩”との結び付きが強いことをひとつの特徴とする。“幸福・愛”との密接な関連は、既に挙げた用例17, 27などから窺うことができる。“平穩”との関連は、次のような用例に明確に現われる。

30. アイバは一人の平凡な主婦として、フィリップと二人だけの静かで平和な生活に戻るはずだった。

(ドウス昌代 東京ローズ p.150)

31. 而してそう努めている限り、世評は兎も角、夫の態度に変わりはないし、我が家の内にも以前と同様平和な、静かな日常が続いてゆくものだと知った。

(五味康祐 秘剣 p.50)

先に挙げた用例15, 16も同様の例と見ることができる。このように見てくるならば、“日常的”で“私的”な、〈静かで幸福な家庭〉が、日本語の「平和」の意味の、ひいては日本人の平和像の、ひとつの重要な要素であることは明らかであろう。少なくとも、〈静かで幸福な家庭〉が、日本人の平和像の“積極的”部分の最も重要な位置を占めることは確かであろう。

“家庭”について次に問題とすべきは、“世界”との近接性であろう。このふたつのグループの近接性を説明するに足る理由は現在のところ見出せない。せいぜい、二義的な理由を、ふたつ推測しうるのみである。ひとつは、“家庭”、“世界”ともに“平和”の適用範囲に関わると言うことである。論理的には、“社会”や“国家”の“平和”も考えうるし、現実にも成立しえようが、日本人の場合、少なくとも現代学生の場合、“平和”の成立しう

る場として、まず“世界”と“家庭”があると言えよう。二番目の理由はこれに関わるが、世界とは、拡大された“イエ”であるといった類の世界認識の存在である。世界は、国家や民族や社会集団の集合体ではなく、地球的規模に拡大された“家庭”であるというイメージは、「世界は一家人類は皆兄弟」と言うスローガンに典型的に現われる。

“世界”というグループが“戦争”グループと近いことは既に述べた。このグループについては、この点だけを指摘しておく。

以上、13のグループについて、日本語の「平和」の意味の構成要素を探るという観点からその対立、近接関係を手掛りに、個別的に論じてきた。以下次節では、日本語の「平和」の意味なり、日本人の平和像の特質について、残された問題と今後の検討課題を取上げる。

6. 「平和」の意味の構成要素と平和像

前2節では、日本語の「平和」の意味の構成要素と考えられる様々な意味要素を抽出した。その主なものは次のとおりである。

- 〈戦争がない〉
- 〈核（の脅威）がない〉
- 〈争 点〉
- 〈平和の拠り所〉
- 〈原爆被爆〉
- 〈戦争の被害，惨禍〉
- 〈シンボル〉
- 〈運 動〉
- 〈穏やか，静か〉
- 〈争い，事件がない〉
- 〈自 然〉
- 〈幸 福〉
- 〈家 庭〉
- 〈世 界〉
- 〈好ましい〉

ここで15の意味要素を抽出したからと言って、「平和」という言葉が使われるとき、この15の要素がすべて均等の比重で現われるわけでもなければ、「平和」に15の意味なり語義があると言うわけでもない。「平和」という言葉が現実の場面で使われるときには、このうちのどれかひとつまたはひとつ以上の要素に重点を置いて使われることは言うまでもない。また、この15の要素が第4節で述べた、日本語の「平和」の意味を記述するに必要にして十分な意味単位であるというわけでも勿論ない。第一に、〈戦争がない〉という意味単位を下位区分したり、〈穏やか，静か〉の派生的意味を指摘したように、少なからぬ数の具体的用例の解釈に当っては、より細かな意味区分なり概念の下位区分が必要となるからである。第二に、例えば、〈戦争がない〉は、〈争い，事件がない〉の下位概念であり、〈好

ましい)は<幸福>にも<家庭>にも共通する、といった意味内容の重なり合いに見られる如き概念規定上の問題が存在する。第三に、この15の意味要素はむしろ概念レベルの単位であり、これが言語レベルにおいてどのように具体化されるか、即ちどのような単語なり言語単位として実現されるかについては、ここで扱った学生の反応の主なものを別にすれば、未知の部分があまりに多い。第四に、この15の要素の抽出の基礎となったのは学生を対象とした調査であり、「平和」の重要な意味要素が欠落する可能性がある。事実、次のような用例が少なくないことから判断すれば、「平和」の意味要素として<繁栄>という要素を無視できないことは明らかである。

32. 青空, 白い雲, 潮風を受けて犯罪はふえず, 平和と繁栄に酔っていた上にとつぜん襲いかかった無情な嵐。

(星新一 鬼 p.187)

33. 国家が繁栄しているためさ。平和な時代に耐えられるだけの精神が欠如しているんだな。金はあ
る, 暇はある, しかし, 四方のどこを見まわしても刺戟がない。

(立原正秋 血と砂 p.9)

今回の調査結果に<繁栄>という要素が欠落しているのは、被験者である今日の学生にとって、繁栄は当然すぎて意識に上らないからであろうか。いずれにせよ、日本人一般を問題にするとき、<繁栄>という要素を加えなければならないことは明らかである。また、他言語、他文化との比較と言う観点からすれば、既に言及した石田(1968)も指摘するよ
うに、<繁栄>は平和概念の重要な要素である。⁶⁵⁾同様の観点からすれば、欠落しているのは<繁栄>に限らない。<正義>、<神意>、<秩序>、⁶⁶⁾あるいは<社会的公正>⁶⁷⁾といった観念も欠落している、あるいはどう控え目に言ってもきわめて弱い、ことは確かである。このような意味要素が欠落していたり、ごく小さな比重しか占めないということは、学生あるいは日本人一般にとっての「平和」の意味、ひいては平和像のひとつの特徴と言ってよいであろう。

このように多くの欠陥、問題を孕むとはいえ、ここに挙げた15の意味要素は、日本語の「平和」の意味を考えると、また日本人の平和像を考えると、十分とは言えないにし

でも決して無視しえない意味要素であることも確かである。

これら15の意味要素については、前2節で個別に取り上げ、不十分ではあるが、他の要素との関連を、主として対立と近接と言う観点から検討した。このような個別的、部分的な関連とは別に、15の要素全体についても、平和研究の概念を借りて、“消極的平和”と“積極的平和”というふたつのグループに大別されることを示した。ただ、全体的に見た場合、ふたつのグループに分かれることを示したのみで、それぞれの内的構造やふたつのグループの関係については触れていない。前者は今後の検討課題であり、ここで取り上げる余裕はないが、後者については、ここで今少し検討しておく。まず、“消極的平和”、“積極的平和”というふたつのグループの意味付けであるが、これがそれぞれ“戦争”と“平和の実質”に対応することは既に述べたとおりである。しかし、その構成要素に着目すれば、このふたつのグループの対比から、“政治”——“非政治”、“非日常性”——“日常性”、“現実”——“理想”、“具体”——“抽象”、“人為”——“自然”、“公”——“私”といった様々な対比を読み取ることも十分に可能である。このような対立軸を採り上げて、日本語の「平和」の意味なり日本人の平和像を検討することは興味ある研究課題であろう。しかし、今回の調査結果に関する限りでは、これらの対立軸は、独立に採り上げるには相関が高すぎる。即ち、“消極的平和”グループが相対的に“政治的”であり、“非日常的”であり、“現実的”であり、“具体的”であり、“人為的”であり、“公的”であるのに対し、“積極的平和”グループは、相対的に“非政治的”であり、“日常的”であり、“理想的”であり、“抽象的”であり、“自然的”であり、“私的”であると言う関係が成立するケースが多すぎて、個々の対立軸を独立に扱う意味が乏しい。⁶⁸⁾それよりもここで問題となるのは、上述のような様々な対比の意味合いを併せもった“消極的平和”グループと“積極的平和”グループを結びつける要素が、少なくとも今回の調査結果に関しては、存在しないということであろう。

このように、“消極的平和”グループと“積極的平和”グループを媒介する意味的概念的要素が存在しないということは、言語レベルで言えば、日本語の「平和」の意味が大きくふたつに分かれることを意味する。両グループのどの要素に重点が置かれ、どのような要素が結合されるかという視角からすれば、「平和」の意味が更に細分化されることは既に述べたとおりであり、ここで繰返す必要はないが、ごく大ざっぱに考えたとき、“消極的平和”と“積極的平和”に代表されるふたつの意味に大別されるということである。⁶⁹⁾この

とき、我々の関心は、このふたつの意味が、社会集団、階層、あるいは年齢、性と言った変数と、どう相関するかと言うことである。

言語レベルを離れて、概念レベルあるいは平和像の問題として考えると、ほぼ同じことが言えるが、事は多少複雑になる。日本人、少なくとも学生の平和像が、視覚的には図4に示されるように、“消極的平和”と“積極的平和”に代表される意味を持ったふたつの部分から成り、これを結びつける要素がないことは確かである。更に言えば、日本人の平和像は、“消極的平和”と“積極的平和”というふたつの部分が無関係に併存しており、ふたつの部分を媒介する要素を欠くという解釈も可能である。これが日本人の平和像の特質であるか否かについては、比較すべきデータはないが、日本人の平和像を論ずる上で、ここで指摘しておく価値はあろう。しかし、このような平和像の内部構造については留保を付けておく必要がある。成程、図4から示唆される、上述のような平和像の構造は、ある程度の説得力を持っている。けれども、これは日本人一般、少なくとも学生の平和像は幾つかの類型から成るのではなくて、斉一的であるという仮定に立った議論であることを忘れてはならない。日本人の平和像が斉一的でなく、複数のタイプから成るとするならば、上述のような平和像の構造とその根拠となった図4は、複数の異なった平和像をひとつの平面に押し込め、平均化したものにすぎなくなるからである⁷⁰⁾。この点に関しては、稿を改めて論ずるつもりである。

以上、本稿では、学生を対象とする連想調査にもとづいて、日本語の「平和」の意味と日本人の平和像の特質と構造を論じてきた。このような分析から得られた知見は、多分に断片的であり、ここに反復する煩は避けるが、飽くまでひとつの出発点にすぎない。今後究明すべき問題点は数多く残されているし、また「平和」の歴史や、他言語、他文化との比較など本稿で扱えなかった領域も多い。しかし、このような今後の研究に際して、本稿で得られた知見は、ひとつの手掛りを提供しうるであろう。

註

1. 図1では、全体としての日本人の平和像が一枚岩あるいは齊一的であるかのように扱われている。しかし、憲法9条、核兵器の所有、自衛隊といった所謂“平和問題”に関する世論調査結果から見る限りでは、日本人の「平和」はふたつ以上に分裂していると考えられる。具体的なデータについては、初瀬・松尾(1979) pp.13-15参照。日本人の平和像についても同様であるか否かについては、今のところ判断材料がない。この点については、本稿末尾で再び取り上げる。
2. 図におけるAには、どのような媒体によっても顕在化できない部分——例えば日本人の心の深層なり下意識における平和観——があるという可能性については、ここでは触れない。
3. 例えば「和平」、あるいは「戦争」といった単語も考慮に入れるべきだ等々。
4. 「平和」の意味を質的、定性的に、しかも他の語と弁別しうる限りにおいて問題にするのであれば、このような問題は必ずしも生じない。
5. Rapoport(1975)は、語の内的意味を明らかにする方法として、SD法、連想法、隠喩研究、内容分析の4つを取り上げ、前二者を実験的方法としている。Rapoport(1975) pp.154-197。SD法についてはOsgood *et al*(1957)参照。連想法については、梅本(1969) pp.3-4、参照。
6. 用語、定義とも学者により様々であり、コンセンサスは得られていないようである。詳しくは、例えば、Lyons(1977) pp.174-176参照。
7. Osgood *et al*(1957) p.325, Ullmann(1962) pp.69-70, 田中(1969) pp.198-199など。
8. Deese(1965) pp.42-43, 「連想的意味(associative meaning)」の語もDeeseによる。
9. 池上嘉彦は、梅本(1969)の連想調査の結果を使って、「美しい」という単語の“意味の場”の記述を試みている。池上(1975) pp.309-311。後掲の図4も、日本語の「平和」をめぐる意味の場と解することができる。
10. 言語学で言う“近接性”ないしは“シンタグマティックな”関係にもとづく語の反応度数が大きいという指摘もある。池上(1975) p.311。また註51, 52も参照。
11. 国語辞書、和英、英和辞書における「平和」の扱いも歴史的に見れば興味ある研究課題である。またシソーラスにおける扱いについては、大野・浜西(1981) p.168, 国立国語研究所(1964) p.82を参照。
12. 石田(1968) pp.18-37。ほぼ同じ内容が、Ishida(1969) pp.133-139にも再録されている。
13. 石田・前掲書 p.33。
14. 田中(1971) pp.73-77。
15. 田中(1969) p.199。なお、本稿第5節の“幸福・愛”についての議論も参照。
16. Cooper(1965) p.4。
17. 同上 p.9。日本人の大学生の場合も同様である。後掲表3, 表4参照。
18. Deese(1965) p.202。後掲表3, 表4参照。
19. 清水ほか(1967) pp.16-17。
20. 同上 pp.50-51。
21. 同上 p.147。
22. 梅本(1969) pp.5-7。
23. 国立国語研究所(1962) p.2, 32, 158。
24. 国立国語研究所(1973) p.4, 47。この使用率には、「平和」を含む複合語は含まれていない。同書 p.462参照。
25. Carroll *et al*(1971)による。“peaceful”を加えると使用率は100万語に97回となる。Carroll *et al*(1971) p.341。

26. 梅本 1962 のデータは、梅本 (1969) p.298による。
27. S は、ふたつの言語資料間の全体としての語彙の類似度を各語の使用率 (本稿では反応率) にもとづいて示す指標である。S は次のように求められる。任意の単語 i について、資料 X での使用率 (ここでは、反応度数 / 被験者総数) を $p_i(X)$ 、資料 Y における使用率を $p_i(Y)$ とすると、

$$S = \sum_i \left\{ \sqrt{p_i(X) p_i(Y)} - \frac{1}{2} | p_i(X) - p_i(Y) | \right\}$$

また、任意の単語 j について、

$$s_j = \sqrt{p_j(X) p_j(Y)} - \frac{1}{2} | p_j(X) - p_j(Y) |$$

とすれば、

$$S = \sum s_i$$

- であり、この s_i を単語 i の寄与率と言う。詳細は松尾 (1982 b) pp.164-169 参照。なお、表 2 に示したのは各単語についての s_i の値であり、 $S=0.4868$ は、表 2 中の各語の寄与率の合計である。
28. 梅本 1962 の表 2 に現われない反応語の延べ数は 308、従ってこれらの反応語の使用率の総和は、0.3098 (30.98%)、同様に松尾 1982 では表 2 に現われない反応語は延べ 266、使用率総和は 0.2765 (27.65%)。仮にふたつの調査で、表 2 に現われない反応語は全く共通しないと仮定すると、梅本 1962 で表 2 に出現しない反応語の寄与率の総和は -0.1549 、松尾 1982 では -0.1382 となるから、梅本 (1962) と松尾 1982 の全体の類似度は
- $$0.4868 - 0.1549 - 0.1382 = 0.1937$$
- となる。
29. 例えば、松尾 (1982b) に示された被爆手記相互の語彙の類似度 S の値を参照。松尾 (1982b) p.173, 表 6。
30. 梅本 1962 の結果を見れば、「たばこ」という刺激語に対する反応では「ピース」という反応が、銘柄としては断然多い。梅本 (1969) p.281。従って、「ピース」と回答した被験者の多くは煙草の銘柄を連想したと考えられる。
31. LEX については、松尾 (1982 a) 参照。使用機種は、広島大学総合情報処理センターの HITAC M-200H である。
32. ふたつの言語的要素、例えば単語が、言語資料の任意の構成要素、例えば文中に、この場合ひとりの被験者の反応中に、共に出現することを共出現と言う。詳しくは、松尾 (1981 b) pp.103-105 参照。なお、用語自体は必ずしも統一されておらず、英語で “cooccurrence”, “contingency” (Osgood (1959) など)、日本語で “共出現”, “連帯出現” (清水ほか (1967) など) が用いられる。
33. 松尾 (1981 b) p.129。ユールの Q の一般的定義については、安田・海野 (1977) pp.21-22 などを参照。なお、共出現の指標としては、共出現係数 C などがあるが、本稿で Q を用いたのは、ユールの Q のほうが、本稿の調査データの場合には、単語間の相関の度合いの差異をよりよく表現しうるからである。松尾 (1981 b) pp.136-138 参照。
34. ユールの Q の計算は、すべて LEX の COMATRIX 命令によった。松尾 (1982 a) pp.136-144 参照。
35. 最近隣法によるクラスター分析も試みたが、最遠隣法による方が、意味の上でより自然であると解釈される結果が得られる。最遠隣法、最近隣法については、Anderberg (1973) pp.137-139, 安田・海野 (1977) pp.216-221 参照。
36. このようなクラスターが出現する理由のひとつは、相対的に反応度数の小さい単語間では、ユールの Q の値が過敏なほどに大きく揺れる、極端に大きくなったり小さくなったりしがちであるとい

- うことである。図3のクラスター10などがその典型的な例である。なお、付表2も参照。
37. ユールのQの計算に際しては、各グループについて、所属する単語のうち少なくともひとつを答えていれば出現度数1、ひとつも答えていなければ出現度数0とした。この方法の詳細は、松尾(1981b) pp.105-112参照。
38. 共出現関係にもとづく多次元尺度解析の言語データへの適用例としては、水谷(1976)、McKinnon(1977)がある。
39. 実際の計算には、SPSSのFACTORサブプログラムを用いた。三宅ほか(1977) pp.130参照。
40. 因子数を増やせば、 n 次元空間上のユークリッド距離として定義できるし、より簡単には表5のユールのQそのものを距離として扱うこともできる。但し、ユールのQは、類似度の指標であり、直接には厳密な意味での距離としては扱えない。ここでユールのQではなく、因子分析の結果を用いたのは、ふたつのグループの距離に関し、因子分析の場合は他のすべてのグループとの距離が考慮されているのに対し、ユールのQでは他のグループとの関係はまったく考慮されないからである。
41. 例えば「鳩」、「白」等の構成メンバーから成る“シンボル”という名称のグループについてみると、〈平和のシンボル〉という意味を表わす単語ないし、“語彙素”は存在しないから、“シンボル”は意義素とは言えない。また、この13のグループの多くは、「平和」と他の語の比較において示差的であるとも言えないし、ましてや不可分の最小単位であるとも言えない。但し、ここでの“意義素”の定義は池上(1975) pp.139-140に、“示差的特徴”のそれはJakobson *et al* (1951) p.3による。
42. 広島県の高校生1,878名を対象としたアンケート調査で、「将来、核戦争が起こる危険がある」と答えた者71.4%という報告がある。広島県高教組平和教育推進研究小委員会(1983)設問13参照。しかし、これに対して、全国の有権者を対象とした世論調査結果によれば、「世界大戦が起こる恐れのある」と思う者は23ないし24%である。NHK放送世論調査所(1982) pp.164-165参照。
43. 多くの国語辞書では、「平和」の語義を“平穏であること”と、“戦争のないこと”のふたつに分けている。
44. “消極的平和”概念については、Galtung(1969) p.183, Rapoport(1977) p.240参照。単に“戦争がない”と言う意味では、Rapoportの定義に近いと言える。
45. 用例3, 4に対する反例も少なくない。例えば、次の少女の詩を参照。

八月六日までは平和だった広島
 原爆がおちたその日からは
 広島に不幸が立ち寄った
 ……(以下略)……
 (大原三八雄ほか編 日本原爆詩集 p.184)

46. 用例6, 8は、空間的比較というより、時間的比較の例と考えるべきかも知れない。註45の用例も参照。
47. 用例8について言えば、暑苦しさや無気味さにまったく言及することなく、好ましい意味で昭和20年8月6日朝の好天と青空に言及した被爆手記は少なくない。「原爆体験記」p.31, 36, 45, 55, 192など、「原爆ゆるすまじ」p.68, 119など参照。
48. 「核」とのユールのQの値は、「日米安保」0.516, 「アメリカ」0.632, 「ソ連」0.712, 「軍縮」0.649であり、「原爆」とのユールのQは、「日米安保」0.413, 「アメリカ」0.377, 「ソ連」0.276, 「軍縮」-0.217である。「核」と「原爆」の比較については、「反核」、「核兵器」、「核廃絶」等の単語も考慮に入れるべきである。
- なお、「原爆」と「核」の比較については、「原爆」はむしろ“自然”と「核」はむしろ“平穏”と対比されるという傾向も指摘できる。表5および付表2参照。

49. 図4では“自然”と“幸福・愛”だけでなく，“自由”，“平穩”も同様に“原爆”と遠い。しかし，表5のユールのQに従えば，“原爆”と“自然”の相関が最も低い。また，実際の用例でも“原爆”の〈被害，惨禍〉は，“自由”や“平穩”より，“自然”や“幸福・愛”と対比されることが多い。
50. 例えば，「平和公園」は，祈りの場，慰霊，鎮魂の場という意味付けとともに，憩の場という意味付けも与えられる。また，現実には観光地でもあると言う事実もある。このグループの中で“シンボル”としての意味について研究が行われているのは「鳩」だけのようである。言語が対象ではないが，鳩については図像学研究が行われている。宮田（1982）参照。
51. “シンタグマティック”，“パラディグマティック”という二分法は Sussure に由来するとされる。簡単に言えば，“old”と“young”は，パラディグマティックな関係にあり，“old”と“man”，“woman”はシンタグマティックな関係にある。定義も含め，詳細はLyons（1977）pp.240-241参照。なお，パラディグマティックな関係は，Jakobson（1960）の指摘するように，しばしばシンタグマティックな関係として，例えば“old and young”として実現される。Jakobson（1960）p.358参照。しかし，本文で問題にしているのは，本来パラディグマティックな関係にあるとは認め難い単語（群）の間のシンタグマティックな関係である。
52. “類似性”，“近接性”は，“パラディグマティックな関係”，“シンタグマティックな関係”に相当する概念であり，ここでの用法は，池上（1975）p.40による。
53. 筆者が1981年に行ったごく小規模の調査でも，ほぼ同様の対比が見られる。松尾（1981a）pp.13-17参照。
54. “積極的平和”の概念については，平和研究者間でもコンセンサスはない。本稿では，「戦争や戦争の被害がないだけでなく，それ以外の何らかの好ましい価値が実現される状態」というほどの意味で用いる。
55. 例えば『日本国語大辞典』（小学館）の「平和」の項，『大漢和辞典』（大修館）第四巻 p.510など参照。
56. 国語辞書の扱いもこの点では同様である。註43参照。
57. この例は，中村（1977）p.408による。
58. 但し，ユールのQの値に従えば，“平穩”は“幸福・愛”に最も近い。表5参照。
59. Hook（1979）pp.93-94参照。Hookは，次のような児童の回答を例として挙げている。

Peace is a peaceful cottage in the country.

Peace is quietness in the field with birds and flowers.

（いずれも，Hook（1979）p.94）

60. “幸福・愛”は，“積極的平和”グループでは群を抜いて反応度数が高い。表4を参照。
61. 表3より「幸福」の反応度数は133，表4より“幸福・愛”のグループとしての反応度数は257。従って，このグループに反応した被験者の半数以上が「幸福」に反応していることになる。
62. 例えば「真の平和」，「恒久平和」といった表現を参照。
63. Hayakawa（1963）pp.194-196による。
64. 現在このように断定するに足るデータはないが，北九州（小倉，戸畑，八幡，門司，若松の合計）や函館と比べると，広島の方が「平和」を冠した企業，商店が多い。
65. 石田（1968）p.23。なお，本稿図2も参照。
66. 以上図2参照。
67. Galtung（1969）p.183。
68. “消極的”——“積極的”という軸は，Hook（1979）におけるカナダとインドの児童の平和イメージの分析においても用いられている。Hookは，これに加えて“具体”——“抽象”と言う軸を設

定し、このふたつの軸により平和イメージの分析を試みている。Hook (1979) pp.92-94参照。しかし、本稿で扱っている調査結果では、図4を検討すれば明らかなように、このふたつの軸は相等に相関が高く、“消極的” = “具体”、“積極的” = “抽象”といった関係の方が強く、独立の軸あるいは因子として扱うのは無理である。

Hook (1979) のデータでは、このようなふたつの軸の設定が有効であるのに対し、本稿で扱ったデータでは有効性に乏しい理由は幾つか考えられる。児童と大学生という被験者の世代、年齢の相違、カナダ、インド、日本という文化の相違、文章を書かせる方法と単語を答えさせる連想調査という調査方法の相違、相関を必ずしも重視しないで比較に主眼をおくHookの方法と相関、就中共出現関係と構造を重視する本稿の方法という分析方法の相違などそれである。しかし、今のところ判断を下すべき材料はない。

69. これは、「平和」の意味の定義として“消極的平和”、“積極的平和”という用語を用いるのが適切かどうかとは別の問題である。
70. “消極的平和”、“積極的平和”という二分法は別にして、図4を平和像の内部構造のひとつの近似と解する場合にも同様の議論が成り立つ。

引用文献

- Ålvik, Trond (1968) 'The Development of Views on Conflict, War, and Peace among School Children' *Journal of Peace Research* 1968 No.2 pp.171-195
- Anderberg, Michael R. (1973) *Cluster Analysis for Application* Academic Press
- Carroll, J. B. et al (1971) *Word Frequency Book* Houghton Mifflin
- Cooper, Peter (1965) 'The Development of the Concept of War' *Journal of Peace Research* 1965 No. 1 pp.1-17
- Deese, James (1965) *The Structure of Association in Language and Thought* The Johns Hopkins Press
- Galtung, Johan (1969) 'Violence, Peace, and Peace Research' *Journal of Peace Research* 1969 No.3 pp.167-191
- Ehly, J. A. E. A. (1972) 'Images of War and Peace: A Cross-National Study of Children's Orientations to Conflict and Cooperation in the Global System' Ph.D Dissertation, Northwestern University. Xerox University Microfilms.
- Haavelsrud, Magnus (1970) 'Views on War and Peace among Students in West Berlin Public Schools' *Journal of Peace Research* 1970 No.2 pp.99-120
- 初瀬龍平・松尾雅嗣 (1979) 「日本人の核意識構造——被爆体験と政党支持」 広島大学平和科学研究センター研究報告シリーズNo.1
- Hayakawa, S. I. (1963) *Language in Thought and Action* 3rd edition Harcourt Brace Javanovich
- 広島県高等学校教職員組合平和教育推進研究調査小委員会 (1983) 「高校生の原水爆等に関する意識および知識の調査——12年間の推移と現在」 広島県高等学校教職員組合
- Hook, Glenn D. (1979) 'Orientations to Peace among Canadian and Indian Children' *Peace Research in Japan* 1978-79 pp.85-101
- 池上嘉彦 (1975) 「意味論」 大修館書店
- 石田雄 (1968) 「平和の政治学」 岩波書店
- Ishida, Takeashi (1969) 'Beyond the Traditional Concept of Peace in Different Cultures' *Journal of Peace Research* 1969 No.2 pp.133-144
- Jakobson, Roman (1960) 'Linguistics and Poetics' Sebeok(ed) *Style in Language* MIT Press pp.350-377
- Jakobson, Roman et al (1951) *Preliminaries to Speech Analysis: The Distinctive Features and Their Correlates* MIT Press
- 国立国語研究所 (1962) 「現代雑誌九十種の用語用字 第一分冊 総記および語彙表」 国立国語研究所報告21
- (1964) 「分類語彙表」 秀英出版
- (1973) 「電子計算機による新聞の語彙調査 (IV)」 国立国語研究所報告48
- Lyons, John (1977) *Semantics 1* Cambridge University Press
- 松尾雅嗣 (1981 a) 「言葉と平和 (2)」 広島大学放送教育実験実施委員会編 「平和を研究する」 pp.11-19
- (1981 b) 「言語要素間の共出現の指標について——自然言語データ分析の一手法として」 『広島平和科学』 No.4 pp.101-143
- (1982 a) 「テキスト語彙処理プログラムLEX」 広島大学平和科学研究センター研究報告シリーズ No.6
- (1982 b) 「言語資料間の語彙の類似度——被爆手記をデータとして」 『広島平和科学』

- No. 5 pp.159-180
- McKinnon, Alastair (1977) 'From Co-occurrences to Concepts' *Computers and the Humanities* Vol.11, No.3 pp.147-155
- 三宅一郎ほか (1977) 『SPSS統計パッケージⅡ 解析編』 東洋経済新報社
- 宮田光雄 (1982) 「平和のハト — 一つの象徴の精神史」 『理想』 1982年8月号 pp.107-128
- 水谷静夫 (1976) 「語の共出現に拠る語彙構造探求の諸法」 『計量国語学』 No. 79 pp.1-18
- N H K放送世論調査所編 (1982) 『図説戦後世論史 第二版』 日本放送出版協会
- 大野晋・浜西正人編 (1981) 『類語新辞典』 角川書店
- Osgood, Charles E. (1959) 'The Representational Model and Relevant Research Methods' I.de Sola Pool(ed) *Trends in Content Analysis* Univ of Illinois Press pp.33-88
- Osgood, Chales E. et al (1975) *The Measurement of Meaning* University of Illinois Press
- Rapoport., Anatol (1975) 『社会 Crowell
- (1977) 'Definitions of Peace' 『広島平和科学』 No.1 p.240
- Rosell, Leif (1968) 'Children's Views of War and Peace' *Journal of Peace Research* , 1968 No. 3 pp.268-276
- 清水御代明ほか (1967) 『連想法による意味の分析』 日本心理学会心理学モノグラフ 5
- 高田和夫 (1983) 「現代学生の安保意識について——九州・沖縄地区意識調査から」 『憲法と平和保障』 (法学セミナー増刊 総合特集シリーズ22) 日本評論社 pp.244-248
- 田中靖政 (1969) 『コミュニケーションの科学』 日本評論社
- (1971) 『現代日本人の意識』 中央公論社
- Ullmann Stephen (1962) *Semantics: An Introduction to the Science of Meaning* Oxford: Blackwell.
- 梅本堯夫 (1969) 『連想規準表』 東京大学出版会
- 安田三郎・海野道郎 (1977) 『社会統計学 第二版』 丸善

用例出典

発行年は、使用した版の初版発行年を示す。必ずしも初出年ではない。

- 赤川次郎 「双子の家」「幽霊候補生」 文春文庫（1982）所収。
 石川達三 「声なき民」 「蒼氓」 新潮文庫（1957）所収
 井上ひさし 「偽原始人」 新潮文庫（1979）
 井上靖 「澄賢房覚え書」 「ある偽作家の生涯」 新潮文庫（1956）所収。
 井伏鱒二 「多甚古村」 新潮文庫（1950）
 大原三八雄，木下順二，堀田善衛編 「日本原爆詩集」 太平出版社（1970）
 原爆モニュメント研究グループ 「原爆モニュメント碑文集」 （1978）
 日下圭介 「蝶たちは今…」 講談社文庫（1978）
 五味康祐 「秘剣」 「秘剣・柳生連也斎」 新潮文庫（1958）所収。
 城山三郎 「黄金の日々」 新潮文庫（1982）
 瀬戸内晴美 「いずこより」 新潮文庫（1974）
 武田泰淳 「ひかりごけ」 新潮文庫（1964）
 立原正秋 「血と砂」 文春文庫（1983）
 中条一雄 「私のヒロシマ原爆」 朝日新聞社（1983）
 つかこうへい 「初級革命講座 飛龍伝」，「出発」 いずれも『戦争で死ねなかったお父さんのために』 新潮文庫（1979）所収
 東大十八史会編 「学徒出陣の記録」 中央公論社（1968）
 ドウス昌代 「東京ローズ」 文春文庫（1982）
 中村明 「比喩表現辞典」 角川書店（1977）
 日本戦没学生手記編集委員会編 「きけわだつみのこえ 日本戦没学生の手記」 東京大学出版会（1952）
 野坂昭如 「ゲリラの群れ」 角川文庫（1970）
 原民喜 「夏の花」 「夏の花・心願の国」 新潮文庫（1963）所収。
 広島県被爆者の手記編集委員会編 「原爆ゆるすまじ」 新日本出版社（1965）
 広島市原爆体験記刊行会編 「原爆体験記」 朝日新聞社（1975）
 星新一 「鬼」 「ちぐはぐな部品」 角川文庫（1972）所収。
 松本清張 「朴烈大逆事件」 「昭和史発掘1」 文春文庫（1964）所収。
 三浦綾子 「石ころのうた」 角川文庫（1979）
 柳田邦男 「空白の天気図」 新潮文庫（1981）

付表1 全反応語アイウエオ順リスト(数値は反応度数を示す。)

愛	99	安堵感	1	うな重	1	オノ・ヨーコ	1	核平和利用	1	記念館	5	空虚	1
愛国心	1	安寧	1	宇部	2	おばあちゃん	1	核保有国	1	記念館ホール	1	空襲	1
愛情	3	安寧秩序	1	海	11	思いやり	8	革命	3	記念碑	1	空想	2
間柄	1	安穩	2	右翼	7	親	1	学問	1	昨日	1	草木	1
I B M	1	安廃廃棄	1	右翼化	1	親子	1	核問題	1	きのこ雲	1	草の根運動	3
愛の世界	1	安保問題	1	売り込み	1	親子づれ	1	核抑止	1	基本的人権	1	崩れる	1
曖昧	2	安眠	1	ウルトラ兄弟	2	オリーブ	5	過去	3	基本的人権の	1	口先	1
青	2	暗躍	1	ウルトラマン	1	オリーブの葉	1	籠の中の鳥	1	尊重	1	国	6
青い海	2	安楽	4	運	1	折り鶴	4	風	2	希望	38	国々	1
青い空	2	安楽椅子	1	運転免許	1	オリンピック	9	家族	22	欺瞞	1	雲	1
青空	28	安楽死	1	運動	11	俺	1	家族団欒	1	君が代	1	暗い	1
赤紙	2	いいなあ	1	永遠	21	愚か	1	家族的	1	虐殺	1	暮し	2
赤ちゃん	3	一翻	2	永遠に來ない	1	音楽	6	過大	1	虐待	1	暮す	1
明るい	8	家	2	永遠の願い	1	音楽祭	2	活気	1	キャッチャー	1	車	1
明るさ	3	イエズス	1	映画	1	温室	1	学校	1	フライ	1	クローバー	2
赤ん坊	1	怒り	1	永久	4	女	8	勝手気まま	1	キャンプ	1	軍	2
秋	1	生きがい	2	永久不可侵	1	女の子	1	家庭	33	休憩	2	軍歌	1
悪	1	生きる	3	永久平和	3	温和	1	家内安全	1	休日	2	軍拡	9
握手	5	池谷	1	英語	2	快活	1	叶わぬ願い	1	救世主	1	軍国主義	7
芥川	1	石	3	永世中立	1	海岸	1	鐘	27	休戦	1	軍事	2
あくび	1	石井部隊	2	永世中立国	5	会議	2	神	3	教育	10	軍事衛星	2
朝	1	石野真子	1	永統	1	海軍兵学校	1	神風特攻隊	1	教科書	4	軍事均衡	1
朝日	2	維持	1	永義	1	外交	4	がらくた	1	教科書改悪	2	軍事同盟廃絶	1
葦	1	イスラエル	3	A級戦犯	2	外交政策	1	からす	1	教科書改定	1	軍事ブロック	1
悪しき平和	1	泉	2	笑顔	17	外交問題	1	体	1	教科書検定問	1	解消	1
アジャパー	1	依存	1	得がたいもの	1	外国	1	かり	1	題	1	群衆	1
遊び	1	一時的	1	えさ	1	怪獣映画	1	カリアゲクン	1	教科書問題	13	軍縮	29
暖か	1	一日一善	1	えせ	1	快晴	1	カロヤン	1	狂気	1	軍縮会議	2
暖かい	3	一部の人	1	江戸時代	1	解放	2	川	4	恐慌	1	軍縮週間	1
暖かさ	2	一部分	1	エノラゲイ	1	快樂	1	カワサキ400X	1	京子さん	1	勲章	1
頭	1	一家団欒	1	F14ファントム	1	蛙	1	カワマタ・グ	1	共産党	3	軍事抑止力	1
頭の中	1	一国間	1	ム	1	顔	1	ンジ	1	共政会	1	軍事力	2
当り前	1	一瞬	1	偉い役人	1	科学者	1	環境	1	共存	9	軍隊	6
アデランス	1	偽り	1	円	2	輝き	1	韓国	2	兄弟喧嘩	1	軍備	5
アピール	1	田舎	19	援助	1	書初め	1	監獄	1	夾竹桃	1	軍備除去	1
アフリカ	1	田舎人	1	演説	1	核初	55	感じ	1	協調	7	警察	2
油山事件	1	犬	2	おいしい食べ	1	核拡散防止条	1	完成	1	共同	1	経済	1
アベック	1	稲刈り	1	物	1	約	1	カント	1	恐怖	1	経済安定	1
アポロン	1	居眠り	1	狼	1	核家族	2	樺美智子	1	協力	11	経済向上	1
甘え	2	命	4	大神様	1	核がない	1	かんピース	1	協和	1	芸術	2
アメリカ	25	折り	10	大きな町	1	核根絶	1	願望	5	虚栄	1	ケサラ	1
アメリカ人	1	今	4	大空	1	核実験	4	カンボンシア	2	玉砕	1	けだるさ	1
争い	5	慰霊碑	1	大通り	3	核実験反対	1	緩和	1	極東軍事裁判	1	月桂冠	1
争いのない	3	岩国	1	オートバイ	1	学生	6	黄色	1	虚構	2	月桂樹	1
ありえない	2	岩国基地	1	大原麗子	1	学生運動	1	飢餓	1	虚実	1	月々火水金々	1
あるべき姿	1	陰謀	1	おおらか	1	学生生活	1	危機	3	巨人軍	1	結構	1
安閑	1	ウーマンリブ	1	おおらかさ	1	核戦争	13	木々	1	虚像	4	結婚	2
アンケート	1	飢え	2	おかあさん	1	学徒動員	1	危険	1	虚脱感	1	ケロイド	1
暗殺	1	飢えがない	1	小川	2	核のかさ	1	技術的進歩	1	気楽	1	剣	1
安心	28	右傾化	1	沖繩	6	核廃止	1	犠牲	3	きらめき	1	幻影	1
安住	2	うじ式爆弾	1	沖繩返還	2	核廃絶	31	犠牲者	1	キリスト	2	喧嘩	2
安静	1	嘘	4	おしきせ	1	核廃絶運動	2	偽善	9	キリスト教	1	限界	1
安全	18	歌	7	雄叫び	1	核爆弾	2	偽善者	2	疑惑	1	研究	2
安全保障	2	宇宙	4	小田実	1	核武装	1	基地	1	均衡	3	健康	7
安息	5	宇宙開発	1	穏やか	17	核兵器	47	鬼畜米英	1	緊張がほぐれ	1	現在	16
安泰	4	宇宙戦艦ヤマト	4	穏やかさ	3	核兵器廃止	1	喫茶店	1	る	1	堅持	1
安定	16	ト	4	落ち着き	5	核兵器反対	1	喜怒哀楽	1	苦	1	原始共産社会	1
安定性	1	宇宙船地球号	1	男	3	核兵器反対運	1	氣に病まない	1	空間	1	原始時代	1
安堵	2	訴え	1	訪れない	1	動	1	祈念	2	空気	1	現実	2

力	4	桃源境	1	南京虐殺	1	はかない	1	光	8	物質文明	1	防衛費	2
力の均衡	2	東西関係	1	軟弱	1	バカンス	1	ビキニ環礁	1	筆	1	貿易	1
地球	21	東西均衡	1	南北朝鮮	1	博愛	6	日切地蔵	1	船旅	1	鳳凰	1
蕃積	1	東西対立	1	南北問題	3	漠然	3	ピクニック	1	踏抜け	1	崩壊	2
秩序	3	東西問題	1	難民	2	白鳥	1	非現実性	1	船	1	忘却	1
チャリティー	1	同情	1	ニコチン	1	薄氷	1	悲惨	2	腐敗	1	放射線	1
中	1	東条英機	3	にこにこ	1	禿	1	避暑	1	不満	1	放送	1
中核派	1	統制	1	虹	1	旗	2	飛翔	1	冬	1	暴走族	2
中華料理	2	闘争	1	21世紀	1	畑	1	微笑	1	フラワーフェ	1	ボート	1
中近東	2	道徳	1	24時間番組	2	「はだしのゲン」	1	美人	1	スティバル	3	暴動	1
中国	4	道徳の欠如	1	にせ物	1	8月	2	非戦争状態	1	武力均衡	2	包容	1
昼食	1	動物	2	日常	3	8月6日	11	日だまり	5	武力放棄	1	暴力団	1
中心	1	動物園	1	日常生活	5	8月7日	1	必要	1	古里	3	飽和	1
中東	6	動乱	1	日米安保	33	8月9日	6	人	2	触れ合い	2	ポール	1
中東問題	1	同和	3	日曜の午後	1	パチンコ	5	人の輪	1	ブレジネフ	1	募金	1
駐日米軍	1	時	1	日曜日	2	パチンコ屋	3	人々	5	文化	5	僕の心	1
中立	8	独占資本	1	日中緩和	1	白血病	1	非同盟中立	1	文学	1	保護	1
忠告	1	独立	2	日中国交回復	1	発達	1	日向	1	文化都市	1	保守	2
朝鮮	1	都市	1	日本	107	発展	3	日向ぼっこ	3	噴水	3	ボンド宣言	4
挑発	1	ドストエフス	1	日本軍	1	鳩	499	日の出	1	平安	1	地方領土	4
徴兵	1	キー	1	日本国民	1	花	13	日の丸	9	平穏	21	地方領土返還	1
徴兵制	1	特急	1	日本人	4	話し合い	2	批判	1	平穏無事	6	地方領土問題	1
徴兵制がない	1	特急列車	1	日本船舶振興	1	花園	1	被爆	1	兵器	4	ほのぼの	1
徴兵制反対	1	どっぶり戻る	1	会	1	花束	1	被爆者	5	米軍基地	2	ほほえみ	1
徴兵令	1	土橋	1	250 CC	1	母親	2	非武装	5	兵士	1	本心	1
調和	2	富	2	柔和	1	ハムレット	2	非武装中立	2	平時	2	ほんにゃら	
束の間の幸せ	1	トムキャット	1	にらみ合い	1	破滅	1	暇	1	平静	1	ごっこ	1
つかみどころ	1	友	2	人間	18	はりねずみ	1	表象	1	兵隊	1	ボンボン船	1
がない	1	友達	3	人間愛	1	春	1	平等	23	平凡	3	牧場	1
つた	1	鳥	1	「人間を返せ」	1	晴の日	1	日和見	1	平和アピール	1	誠	1
筒井康隆	1	鳥の声	2	人間社会	1	晴れやか	1	ビラ	1	平和運動	2	真心	2
つながり	1	努力	7	人間の建て前	1	繁栄	3	昼寝	3	平和大通り	4	マザーテレサ	5
鶴	1	トルーマン	1	人間の墮落	1	半永久的	1	広い川	1	平和学	1	麻雀	42
帝国主義	1	トルコ	1	ぬるま湯	1	反核	18	広がり	1	平和祈念式典	5	街明り	1
帝国主義打倒	1	トルストイ	9	願い	15	反核運動	11	広島	286	平和記念像	12	マッカーサー	3
手をつなぐ	1	トロピカル	1	ねむの木	1	反核コンサー	1	広島大学	1	平和記念日	2	松田聖子	2
デカダン	1	トンガ	1	眠り	4	ト	1	ピンフ	10	平和教育	7	祭	1
敵	1	とんでもはっ	1	燃焼	1	反核集会	1	貧富の差	1	平和共存	1	豆	1
デタント	1	ぶん	1	農村	1	万歳	1	ファイアフォ	1	平和憲法	3	守る	1
鉄のカーテン	1	とんぼ	1	ノーベル賞	1	反省	1	クス	1	平和公園	66	満貫	1
手のひら	1	内閣	1	ノーベル平和	1	反戦	15	ファシズム	1	平和行進	1	満足	1
テニス	1	ナイキ	1	賞	1	反戦運動	1	不安	4	平和行動	1	満足感	2
デモ	2	内政不干渉	1	ノーモア・パー	1	反戦歌	1	不安定	1	平和主義	1	満腹	4
デモ行進	1	内部崩壊	1	ルハーバー	1	反戦歌手	1	風船	1	平和授業	1	満腹感	1
テレビ	3	中だるみ	1	ノーモア・ヒ	1	バンドン会議	1	プエルトリコ	1	平和条約	1	見栄	2
テレビ・コマ		仲間	5	ロシマ	5	万民	1	フォーランド	1	平和宣言	3	未完の対局	1
ーシャル	2	仲良く	1	ノストラダムス	1	反覇権主義	1	不確実	1	平和台球場	3	ミサイル	1
天	1	仲良し	1	の予言	1	美	3	不可能	2	平和的解決	1	水	1
田園	2	長生き	2	望み	2	PLO	1	武器	7	平和都市	2	湖	3
田園風景	3	長崎	147	のどか	9	B 52	1	武器放棄	1	平和の泉	1	水谷 豊	1
天下太平	2	長崎の鐘	1	のどかさ	1	ピース	2	「武器よさら	1	平和の塔	1	水の流れ	1
天気	1	長続きしない	1	野原	1	ピースマーク	1	ば」	1	平和の町	1	見せかけ	4
天国	7	長沼裁判	2	のん気	1	ビートたけし	1	複合	1	平和町	1	道	1
天体観測所	1	風	1	のんびり	3	B 29	2	福祉	6	へそ	1	みちのく	1
天皇	11	なごやか	1	肺がん	1	BBC	1	不幸	4	ベトナム	6	ミッドウエイ	3
テン・フィー		NASA	1	魔窟	1	ビール	1	無事	2	ヘミングウェイ		緑	20
ト運動	3	ナチ	1	敗戦	3	ヒーロー	1	富士山	1	イ	2	緑の木	1
天理教	1	夏	1	ハート	1	非核	1	武装	1	ヘレニズム	1	港	1
トイトイ	1	夏休み	1	バイト	1	非核三原則	16	不戦	2	変化がない	1	南十字星	1
塔	1	NATO	1	ハイヌーン	1	非核地域	1	府中町	1	勉強	2	三波春夫	1
冬季オリンピ		慣れ合い	3	馬鹿	1	ピカソ	1	仏教	1	便所	1	実り	1
ック	1	南極	1	破壊	5	ピカドン	1	物質的繁栄	1	防衛	3	未来	19

民主	1	山里	1	連帯	3
民主主義	20	友愛	4	老人	4
民主制	1	優位	1	老令化	1
民青	3	勇気	4	ロータリー	1
民族運動	1	友好	16	ローマ	1
民族自決	1	融合	2	ローマ法皇	6
民族自立	1	友情	12	603部隊	1
民族的自由	1	有事立法	1	ロココ	1
無	2	友人	2	ロッキード事	
ムーミン谷	1	夕涼み	1	件	1
昔	2	ユートピア	2	ロングピース	1
無関心	4	夕日	1	和	11
無感動	1	裕福	1	YMO	1
無気力	4	夕焼け	1	若者	2
無限	3	譲り合い	2	和平	9
無差別	1	豊か	6	笑い	8
無試験	1	豊かさ	2	笑い声	3
無思想	1	ゆとり	4	笑う	1
無邪気	1	UNESCO	2	ワルシャワ条	
矛盾	2	夢	19	約機構	1
無人島	1	よい子	1	ンニヤロウ	1
難かしい	1	余暇	1		
無想	1	欲	1		
無束縛	1	抑圧	2		
無駄	1	抑制	1		
無知	2	予言	1		
無秩序	1	吉田首相	2		
むつ	2	吉田たくろう	1		
無抵抗	1	世の中	1		
無防備	1	ヨハネ・パウ			
無欲	1	ロ2世	2		
村田兆治	1	呼びかけ	1		
女神	5	嫁さん	1		
メッセージ	1	余裕	1		
滅私奉公	1	夜	1		
滅亡	3	喜び	10		
妄想	1	弱いものいじ			
燃えさかる	1	め	1		
黙とう	2	楽	1		
目標	1	楽園	5		
求める	1	ラッパ	1		
森	1	理解	2		
森の泉	1	利己主義	1		
野球	1	理性的	1		
やくざ	1	理想	22		
優しい	2	理想境	1		
優しい人	1	リッチ	1		
優しさ	3	流血	1		
安い	1	留年しない	1		
靖国神社	2	領土	1		
靖国神社公式		ルーズベルト	1		
参拝	1	ルバン3世	1		
靖国問題	1	ルンレン	1		
休み	1	冷静	1		
休み時間	1	冷戦	12		
安らか	2	隷属	2		
安らかさ	2	歴史	7		
安らぎ	37	歴史的時間	1		
山	8	列	1		
山口	6	レバノン	2		
山口大学	3	恋愛	1		
山高	1	連合	1		

付表2 51語相互の共出現にもとづくユールのQ

($Q = \{NC_{xy} - F_x F_y\} / \{NC_{xy} - F_x F_y + 2(F_x - C_{xy})(F_y - C_{xy})\}$ の値を示す。)
 (Qの値は対称。小数第4位切捨。)

	戦 争	鳩	広 島	原 爆	長 崎	幸 福	日 本	自 由	愛
戦 争	1.000	0.051	0.167	0.200	0.019	0.214	0.134	0.123	-0.073
鳩	0.051	1.000	0.229	0.373	0.273	0.022	0.078	-0.059	-0.048
広 島	0.167	0.229	1.000	0.679	0.971	-0.142	0.170	-0.345	-0.124
原 爆	0.200	0.373	0.679	1.000	0.718	-0.154	-0.073	-0.223	-0.261
長 崎	0.019	0.273	0.971	0.718	1.000	-0.118	0.026	-0.259	-0.198
幸 福	0.214	0.022	-0.142	-0.154	-0.118	1.000	0.167	0.371	0.253
日 本	0.134	0.078	0.170	-0.073	0.026	0.167	1.000	-0.065	0.000
自 由	0.123	-0.059	-0.345	-0.223	-0.259	0.371	-0.065	1.000	0.392
愛	-0.073	-0.048	-0.124	-0.261	-0.198	0.253	0.000	0.392	1.000
憲 法	0.403	-0.073	0.370	0.269	0.388	-0.036	0.163	-0.105	-0.606
平和公園	-0.146	0.355	0.321	0.430	0.214	-0.008	-0.467	-0.436	-0.176
国 連	0.169	0.438	0.225	0.101	0.215	-0.299	-0.176	-0.399	-0.026
核	0.432	-0.131	0.413	0.008	0.375	0.031	0.162	-0.525	-0.072
世 界	0.352	0.052	0.037	0.099	-0.028	0.317	0.315	0.282	0.357
自衛隊	0.107	-0.208	0.426	0.515	0.458	-0.426	0.433	-0.127	-0.121
核兵器	0.338	-0.012	0.244	-0.020	0.211	0.129	0.082	-0.115	0.128
公 園	0.305	0.452	0.106	-0.007	0.069	-0.527	0.336	0.094	-0.393
憲法9条	-0.177	-0.220	0.145	0.240	0.185	-0.174	0.084	-0.169	-0.164
希 望	0.193	-0.034	-0.087	-0.140	-0.365	0.081	0.099	0.337	0.484
安らぎ	-0.064	-0.174	-0.298	-0.230	0.036	0.097	-0.178	0.352	0.497
自 然	-0.020	0.026	-0.872	-0.650	-0.720	0.245	0.364	-0.093	0.540
家 庭	0.018	-0.065	-0.143	-0.052	-0.005	-0.077	0.291	-0.076	0.332
日米安保	0.018	-0.251	0.086	0.413	0.205	-0.682	0.182	-1.000	-0.581
核廃絶	-0.528	-0.067	-0.100	0.087	-0.101	-0.407	-0.588	-0.260	-0.255
軍 縮	0.284	0.144	0.111	-0.217	0.188	-0.643	-0.041	-0.002	0.000
青 空	-0.201	0.410	-0.028	-0.532	-0.040	0.155	-0.244	0.315	0.190
安 心	0.069	-0.371	-0.198	0.270	-0.018	0.177	0.000	0.437	0.211
鐘	0.323	0.465	0.168	0.351	0.330	0.177	-0.225	-0.509	0.044
白	-0.308	0.849	-0.097	-0.040	-0.392	-0.620	0.000	-0.188	0.044
子 供	0.209	0.364	-0.070	-0.017	-0.164	0.064	0.579	0.539	0.233
人 類	0.486	-0.034	-0.286	-0.313	-0.164	0.313	-0.523	-1.000	0.361
アメリカ	0.181	0.089	0.308	0.231	0.377	-0.083	0.598	0.250	-0.474
平 等	-0.068	-0.078	0.017	-0.448	-0.314	0.476	-0.138	0.795	0.303
家 族	0.748	0.530	-0.183	0.091	0.246	0.302	0.414	0.542	0.162
理 想	0.399	-0.034	-0.183	-0.428	-0.588	0.576	-0.114	-0.424	0.328
永 遠	0.150	0.014	-0.153	0.244	-0.267	0.527	-1.000	-0.403	0.353
地 球	0.259	0.210	-0.028	-0.196	0.135	0.019	-0.088	0.348	0.793
平 穏	0.045	-0.179	-0.793	-0.023	-1.000	0.527	-0.434	-0.049	-0.398
ソ 連	0.226	0.171	0.228	0.276	0.417	-0.184	0.466	-0.022	-0.376
緑	-0.199	0.274	-0.121	-0.383	0.305	0.466	-0.060	0.375	0.500
民主主義	-0.099	0.171	0.325	-0.167	0.510	0.223	-0.060	0.496	0.217
田 舎	-0.250	0.454	-0.086	-0.358	-0.214	-0.156	0.493	-0.357	-1.000
未 来	0.311	-0.087	0.044	0.188	0.197	0.762	-0.031	0.403	0.408
夢	0.189	0.236	-0.086	0.040	-0.214	0.079	-0.390	-1.000	0.687
安 全	-0.407	-0.146	-0.197	-0.331	-0.513	-0.126	0.399	0.549	-1.000
人 間	0.277	-0.033	-0.363	-0.105	-0.513	0.420	0.000	0.549	0.553
反 核	-0.199	-0.033	0.503	0.224	0.645	-0.126	-1.000	0.271	0.043
笑 顔	-0.365	0.146	-0.007	-0.070	0.266	0.321	-0.338	0.462	0.467
穏やか	0.106	0.146	-0.007	-0.070	0.087	0.453	0.032	-1.000	-1.000
条 約	0.523	0.146	-0.007	-0.070	-0.490	0.146	0.431	0.070	0.467
戦争放棄	-0.754	-0.111	-0.007	-0.070	0.404	-0.093	-0.338	-1.000	-0.298

	憲法	平和公園	国連	核	世界	自衛隊	核兵器	公園	憲法9条
戦争	0.403	-0.146	0.169	0.432	0.352	0.107	0.338	0.305	-0.177
鳩	0.073	0.355	0.438	-0.131	0.052	-0.208	-0.012	0.452	-0.220
広島	0.370	0.321	0.225	0.413	0.037	0.426	0.244	0.106	0.145
原爆	0.269	0.430	0.101	0.008	0.099	0.515	-0.020	-0.007	0.240
長崎	0.388	0.214	0.215	0.375	-0.028	0.458	0.211	0.069	0.185
幸福	-0.036	-0.008	-0.299	0.031	0.317	-0.426	0.129	-0.527	-0.174
日本	0.163	-0.467	-0.176	0.162	0.315	0.433	0.082	0.336	0.084
自由	-0.105	-0.436	-0.399	-0.525	0.282	-0.127	-0.115	0.094	-0.169
愛	-0.606	-0.176	-0.026	-0.072	0.357	-0.121	0.128	-0.393	-0.164
憲法	1.000	-0.250	0.606	0.468	0.085	0.837	-0.280	0.174	0.327
平和公園	-0.250	1.000	-0.184	-0.128	-0.052	-0.267	0.250	-1.000	0.064
国連	0.606	-0.184	1.000	0.078	0.381	0.462	0.391	-0.471	0.557
核	0.468	-0.128	0.078	1.000	0.049	0.432	-1.000	-0.427	0.323
世界	0.085	-0.052	0.381	0.049	1.000	-0.098	0.414	0.211	-0.341
自衛隊	0.837	-0.267	0.462	0.432	-0.098	1.000	0.414	-0.012	0.807
核兵器	-0.280	0.250	0.391	-1.000	0.414	0.414	1.000	0.000	0.401
公園	0.174	-1.000	-0.471	-0.427	0.211	-0.012	0.000	1.000	-0.265
憲法9条	0.327	0.064	0.557	0.323	-0.341	0.807	0.401	-0.265	1.000
希望	-0.492	0.241	-1.000	-0.045	0.252	0.029	-1.000	-0.252	-1.000
安らぎ	-0.154	-0.462	0.137	-1.000	0.043	0.043	0.277	-0.238	-0.213
自然	-1.000	-0.084	-0.041	0.239	0.310	-0.275	0.101	-1.000	-0.169
家庭	-0.433	-1.000	-0.376	0.032	-1.000	0.325	-1.000	0.191	-0.154
日米安保	0.294	0.317	0.558	0.516	-0.260	0.846	0.655	-0.180	0.715
核廃絶	0.327	-0.034	0.500	-1.000	0.140	-0.229	-0.218	-0.147	0.670
軍縮	0.565	0.384	0.530	0.649	-1.000	0.389	-0.184	-1.000	0.608
青空	-0.359	0.247	-1.000	0.341	0.406	-0.177	-0.166	0.477	-1.000
安心	-0.341	-0.320	-0.281	-1.000	-0.158	0.214	0.225	-1.000	0.320
鐘	0.511	-1.000	0.308	0.142	-0.158	0.214	-1.000	0.295	-1.000
白	-1.000	-0.320	0.308	-0.228	0.214	-1.000	-0.147	0.295	-0.048
子供	0.038	0.287	-0.262	-0.209	-1.000	-0.138	0.245	-0.054	-0.028
人類	0.418	-0.302	0.106	-0.209	0.817	-1.000	0.245	-1.000	-0.028
アメリカ	0.060	-1.000	0.347	0.632	-0.117	0.459	0.596	-1.000	0.546
平等	0.107	-1.000	-1.000	0.228	-1.000	-0.073	-0.062	-1.000	-1.000
家族	0.131	0.374	0.412	-1.000	0.320	-0.050	-1.000	0.034	0.418
理想	0.131	-1.000	0.197	-0.122	0.516	-1.000	0.525	0.395	0.061
永遠	-1.000	0.181	-1.000	-1.000	-0.025	0.343	-1.000	-1.000	-1.000
地球	0.157	-1.000	-0.153	0.608	0.536	-0.025	-0.013	-1.000	0.086
平穏	-0.218	0.398	-0.153	-1.000	0.343	-1.000	-1.000	-1.000	0.086
ソ連	-0.193	-1.000	0.457	0.712	0.367	0.001	0.678	-1.000	0.462
緑	-0.193	0.207	-0.127	-1.000	0.001	0.001	-1.000	0.440	0.462
民主主義	0.184	-1.000	0.248	-1.000	-1.000	0.557	-1.000	-1.000	0.632
田舎	-0.166	-0.142	0.482	0.327	-1.000	-1.000	0.040	0.112	0.139
未来	0.212	-0.142	-1.000	0.327	0.578	0.028	0.040	0.112	0.139
夢	-0.166	0.235	-1.000	-0.044	0.392	0.028	-1.000	0.112	-1.000
安全	-1.000	-0.113	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.069	0.141	0.167
人間	-0.137	-0.113	-1.000	-1.000	0.057	0.057	0.607	-1.000	0.167
反核	0.588	0.473	0.304	-1.000	-1.000	0.057	-1.000	0.487	0.507
笑顔	0.272	0.294	0.333	-1.000	0.088	0.088	0.454	-1.000	-1.000
穏やか	-1.000	0.294	-0.040	-1.000	0.088	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
条約	0.272	-0.083	0.532	0.383	0.088	0.445	0.628	0.511	0.531
戦争放棄	0.272	0.500	-0.040	-1.000	0.088	-1.000	-1.000	-1.000	0.197

	希望	安らぎ	自然	家庭	日米安保	核廃絶	軍縮	青空	安心
戦争	0.193	-0.064	-0.020	0.018	0.018	-0.528	0.284	-0.201	0.069
鳩	-0.034	-0.174	0.026	-0.065	-0.251	-0.067	0.144	0.410	-0.371
広島	-0.087	-0.298	-0.872	-0.143	0.086	-0.100	0.112	-0.028	-0.198
原爆	-0.140	-0.230	-0.605	-0.052	0.413	0.087	-0.217	-0.532	0.270
長崎	-0.365	0.036	-0.720	-0.005	0.205	-0.101	0.188	-0.040	-0.018
幸福	0.081	0.097	0.245	-0.077	-0.682	-0.407	-0.643	0.155	0.177
日本	0.099	-0.178	0.364	0.291	0.182	-0.588	-0.041	-0.244	0.000
自由	0.337	0.352	-0.093	-0.076	-1.000	-0.260	-0.002	0.315	0.437
愛	0.484	0.497	0.540	0.332	-0.581	-0.255	0.003	0.190	0.211
憲法	-0.492	-0.154	-1.000	-0.433	0.294	0.327	0.565	-0.359	-0.341
平和公園	0.241	-0.462	-0.084	-1.000	0.317	-0.034	0.384	0.247	-0.320
国連	-1.000	0.137	-0.041	-0.376	0.558	0.500	0.530	-1.000	-0.281
核	-0.045	-1.000	0.239	0.032	0.516	-1.000	0.649	0.341	-1.000
世界	0.252	0.043	0.310	-1.000	-0.260	0.140	-1.000	0.406	-0.158
自衛隊	0.029	0.043	-0.275	0.325	0.846	-0.229	0.389	-0.177	0.214
核兵器	-1.000	0.277	0.101	-1.000	0.655	-0.218	-0.184	-0.166	0.225
公園	-0.252	-0.238	-1.000	0.191	-0.180	-0.147	-1.000	0.477	-1.000
憲法9条	-1.000	-0.213	-0.169	-0.154	0.715	0.670	0.608	-1.000	0.320
希望	1.000	-0.200	0.556	0.230	0.230	-1.000	-1.000	-0.053	0.332
安らぎ	-0.200	1.000	0.435	0.244	-0.126	0.276	-1.000	-1.000	0.652
自然	0.556	0.435	1.000	0.486	0.287	-0.048	-1.000	0.555	-1.000
家庭	0.230	0.244	0.486	1.000	-1.000	-0.032	-1.000	0.382	-1.000
日米安保	0.230	-0.126	0.287	-1.000	1.000	0.333	0.002	-1.000	0.040
核廃絶	-1.000	0.276	-0.048	-0.032	0.333	1.000	0.577	-1.000	0.074
軍縮	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.002	0.577	1.000	0.090	0.109
青空	-0.053	-1.000	0.551	0.382	-1.000	-1.000	0.090	1.000	0.128
安心	0.332	0.652	-1.000	-1.000	0.040	0.074	0.109	0.128	1.000
鐘	-0.034	-0.020	0.025	0.399	-1.000	0.074	-1.000	-1.000	-1.000
白	-0.034	0.345	0.386	-1.000	0.399	-1.000	-1.000	0.128	-1.000
子供	0.656	0.364	0.813	0.417	0.417	0.094	-1.000	0.147	0.504
人類	-0.014	0.364	0.584	0.417	-1.000	0.445	0.129	0.489	0.166
アメリカ	-1.000	-1.000	0.421	-1.000	0.780	0.462	-1.000	-1.000	0.187
平等	0.589	0.065	0.110	-1.000	0.126	-1.000	-1.000	0.211	0.229
家族	0.779	0.089	0.133	0.149	0.149	-1.000	0.543	0.557	0.570
理想	0.430	0.442	-1.000	-1.000	-1.000	0.181	-1.000	0.233	-1.000
永遠	0.451	0.732	-1.000	0.173	0.173	-1.000	0.239	-1.000	-1.000
地球	0.099	-1.000	0.498	0.173	0.173	-1.000	0.708	0.718	-1.000
平穏	0.451	0.113	0.498	0.173	0.173	-1.000	-1.000	0.257	0.588
ソ連	-1.000	-1.000	0.519	-1.000	0.774	0.555	-1.000	-1.000	0.299
緑	0.125	0.139	0.896	-1.000	0.198	0.230	0.264	0.860	0.299
民主主義	0.125	-1.000	-1.000	0.198	-1.000	0.555	-1.000	-1.000	-1.000
田舎	-1.000	-1.000	0.540	-1.000	-1.000	-1.000	0.289	-1.000	0.324
未来	0.858	-1.000	-1.000	0.225	0.225	0.256	0.289	0.306	0.324
夢	0.931	-1.000	0.540	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.746	0.324
安全	0.768	0.529	0.237	0.252	-1.000	0.283	0.316	0.332	-1.000
人間	-1.000	0.194	-1.000	-1.000	0.252	0.283	0.316	0.332	-1.000
反核	0.181	0.194	0.237	-1.000	-1.000	-1.000	0.751	-1.000	0.350
笑顔	0.542	0.224	0.807	0.281	0.281	-1.000	0.343	0.774	-1.000
穏やか	-1.000	0.552	0.266	-1.000	-1.000	0.311	-1.000	0.360	0.376
条約	-1.000	0.224	0.583	0.281	0.594	0.311	0.343	-1.000	0.376
戦争放棄	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.311	-1.000	-1.000	-1.000

	鐘	白	子 供	人 類	アメリカ	平 等	家 族	理 想	永 遠
戦 争	0.323	-0.308	0.209	0.486	0.181	-0.068	0.748	0.399	0.150
鳩	0.465	0.849	0.364	-0.034	0.089	-0.078	0.530	-0.034	0.014
広 島	0.168	-0.097	-0.070	-0.286	0.308	0.017	-0.183	-0.183	-0.153
原 爆	0.351	-0.040	-0.017	-0.313	0.231	-0.448	0.091	-0.428	0.244
長 崎	0.330	-0.392	-0.164	-0.164	0.377	-0.314	0.246	-0.588	-0.267
幸 福	0.177	-0.620	0.064	0.313	-0.083	0.476	0.302	0.576	0.526
日 本	-0.225	0.000	0.579	-0.523	0.598	-0.138	0.414	-0.114	-1.000
自 由	-0.509	-0.188	0.539	-1.000	0.250	0.795	0.542	-0.424	-0.403
愛	0.044	0.044	0.233	0.361	-0.474	0.303	0.162	0.328	0.353
憲 法	0.511	-1.000	0.038	0.418	0.060	0.107	0.131	0.131	-1.000
平和公園	-1.000	-0.320	0.287	-0.302	-1.000	-1.000	0.374	-1.000	0.181
国 連	0.308	0.308	-0.262	0.106	0.347	-1.000	0.412	0.197	-1.000
核	0.142	-0.228	-0.209	-0.209	0.632	0.228	-1.000	-0.122	-1.000
世 界	-0.158	0.214	-1.000	0.817	-0.117	-1.000	0.320	0.516	-0.025
自衛隊	0.214	-1.000	-0.138	-1.000	0.459	-0.073	-0.050	-1.000	0.343
核兵器	-1.000	-0.147	0.245	0.245	0.596	-0.062	-1.000	0.525	-1.000
公 園	0.295	0.295	-0.054	-1.000	-1.000	-1.000	0.034	0.395	-1.000
憲法9条	-1.000	-0.048	-0.028	-0.028	0.546	-1.000	0.418	0.061	-1.000
希 望	-0.034	-0.034	0.656	-0.014	-1.000	0.589	0.779	0.430	0.451
安らぎ	-0.020	0.345	0.364	0.364	-1.000	0.065	0.089	0.442	0.732
自 然	0.025	0.386	0.813	0.584	0.421	0.110	0.133	-1.000	-1.000
家 庭	0.399	-1.000	0.417	0.417	-1.000	-1.000	0.149	-1.000	0.173
日米安保	-1.000	0.399	0.417	-1.000	0.780	0.126	0.149	-1.000	0.173
核廃絶	0.074	-1.000	0.094	0.445	0.462	-1.000	-1.000	0.181	-1.000
軍 縮	-1.000	-1.000	-1.000	0.129	-1.000	-1.000	0.543	-1.000	0.239
青 空	-1.000	0.128	0.147	0.489	-1.000	0.211	0.557	0.233	-1.000
安 心	-1.000	-1.000	0.504	0.166	0.187	0.229	0.570	-1.000	-1.000
鐘	1.000	0.147	-1.000	0.504	-1.000	0.229	-1.000	-1.000	0.275
白	0.147	1.000	0.504	0.166	0.187	0.229	0.252	0.252	0.588
子 供	-1.000	0.504	1.000	-1.000	0.206	0.568	0.584	0.270	0.293
人 類	0.504	0.166	-1.000	1.000	0.206	-1.000	0.270	0.725	-1.000
アメリカ	-1.000	0.187	0.206	0.206	1.000	0.268	-1.000	-1.000	-1.000
平 等	0.229	0.229	0.568	-1.000	0.268	1.000	-1.000	0.330	-1.000
家 族	-1.000	0.252	0.584	0.270	-1.000	-1.000	1.000	0.351	0.373
理 想	-1.000	0.252	0.270	0.725	-1.000	0.334	0.351	1.000	-1.000
永 遠	0.275	0.588	0.293	-1.000	-1.000	-1.000	0.373	-1.000	1.000
地 球	-1.000	0.275	-1.000	0.897	0.312	-1.000	0.658	0.373	-1.000
平 穏	0.588	-1.000	-1.000	0.601	0.312	0.643	0.373	-1.000	-1.000
ソ 連	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.998	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
緑	-1.000	0.741	0.619	0.317	-1.000	0.375	0.395	-1.000	0.416
民主主義	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.632	0.781	-1.000	-1.000	-1.000
田 舎	-1.000	0.624	0.342	-1.000	0.360	-1.000	0.418	-1.000	-1.000
未 来	-1.000	0.324	0.636	-1.000	-1.000	0.398	0.688	0.688	-1.000
夢	-1.000	0.324	0.636	0.636	-1.000	0.675	-1.000	0.802	-1.000
安 全	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.804	-1.000	-1.000	-1.000
人 間	-1.000	0.350	0.367	-1.000	-1.000	0.692	0.442	0.442	0.717
反 核	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.442	-1.000	-1.000
笑 顔	0.376	0.376	0.791	-1.000	-1.000	0.447	0.466	-1.000	-1.000
穏やか	-1.000	0.661	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
条 約	0.376	0.376	0.791	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.733
戦争放棄	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.447	-1.000	-1.000	-1.000

	地球	平穩	ソ連	緑	民主主義	田舎	未来	夢	安全
戦争	0.259	0.045	0.226	-0.199	-0.099	-0.250	0.311	0.189	-0.407
鳩	0.210	-0.179	0.171	0.274	0.171	0.454	-0.087	0.236	-0.146
広島	-0.028	-0.793	0.228	-0.121	0.325	-0.086	0.044	-0.086	-0.197
原爆	-0.196	-0.023	0.276	-0.383	-0.167	-0.358	0.188	0.040	-0.331
長崎	0.135	-1.000	0.417	0.305	0.510	-0.214	0.197	-0.214	-0.513
幸福	0.019	0.527	-0.184	0.466	0.223	-0.156	0.762	0.079	-0.126
日本	-0.088	-0.434	0.466	-0.060	-0.060	0.493	-0.031	-0.390	0.399
自由	0.348	-0.049	-0.022	0.375	0.496	-0.357	0.403	-1.000	0.549
愛	0.793	-0.398	-0.376	0.500	0.217	-1.000	0.408	0.687	-1.000
憲法	0.157	-0.218	-0.193	-0.193	0.184	-0.166	0.212	-0.166	-1.000
平和公園	-1.000	0.398	-1.000	0.207	-1.000	-0.142	-0.142	0.235	-0.113
国連	-0.153	-0.153	0.457	-0.127	0.248	0.482	-1.000	-1.000	-1.000
核	0.608	-1.000	0.712	-1.000	-1.000	0.327	0.327	-0.044	-1.000
世界	0.536	0.343	0.367	0.001	-1.000	-1.000	0.578	0.392	-1.000
自衛隊	-0.025	-1.000	0.001	0.001	0.557	-1.000	0.028	0.028	-1.000
核兵器	-0.013	-1.000	0.678	-1.000	-1.000	0.040	0.040	-1.000	0.069
公園	-1.000	-1.000	-1.000	0.440	-1.000	0.112	0.112	0.112	0.141
憲法9条	0.086	0.086	0.462	0.462	0.632	0.139	0.139	-1.000	0.167
希望	0.099	0.451	-1.000	0.125	-0.125	-1.000	0.858	0.931	0.788
安らぎ	-1.000	0.113	-1.000	0.139	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.529
自然	0.498	0.498	0.519	0.896	-1.000	0.540	-1.000	0.540	0.237
家庭	0.173	0.173	-1.000	-1.000	0.198	-1.000	0.225	-1.000	0.252
日米安保	0.173	0.173	0.774	0.198	-1.000	-1.000	0.225	-1.000	-1.000
核廃絶	-1.000	-1.000	0.555	0.230	0.555	-1.000	0.256	-1.000	0.283
軍縮	0.708	-1.000	-1.000	0.264	-1.000	0.289	0.289	-1.000	0.316
青空	0.718	0.257	-1.000	0.860	-1.000	-1.000	0.306	0.746	0.332
安心	-1.000	0.588	0.299	0.299	-1.000	0.324	0.324	0.324	-1.000
鐘	-1.000	0.588	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
白	0.275	-1.000	-1.000	0.741	-1.000	0.624	0.324	0.324	-1.000
子供	-1.000	-1.000	-1.000	0.619	-1.000	0.342	0.636	0.636	-1.000
人類	0.897	0.601	-1.000	0.317	-1.000	-1.000	-1.000	0.636	-1.000
アメリカ	0.312	0.312	0.998	-1.000	0.632	0.360	-1.000	-1.000	-1.000
平等	-1.000	0.643	-1.000	0.375	0.781	-1.000	0.398	0.675	0.804
家族	0.658	0.373	-1.000	0.395	-1.000	0.418	0.688	-1.000	-1.000
理想	0.373	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.688	0.802	-1.000
永遠	-1.000	-1.000	-1.000	0.416	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
地球	1.000	0.394	0.416	0.687	-1.000	-1.000	0.811	0.702	-1.000
平穩	0.394	1.000	-1.000	-1.000	0.687	0.438	-1.000	-1.000	0.462
ソ連	0.416	-1.000	1.000	-1.000	-1.000	0.459	-1.000	-1.000	-1.000
緑	0.687	-1.000	-1.000	1.000	-1.000	-1.000	0.459	0.878	-1.000
民主主義	-1.000	0.687	-1.000	-1.000	1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.482
田舎	-1.000	0.438	0.459	-1.000	-1.000	1.000	-1.000	-1.000	0.744
未来	0.811	-1.000	-1.000	0.459	-1.000	-1.000	1.000	0.481	0.503
夢	0.702	-1.000	-1.000	0.878	-1.000	-1.000	0.481	1.000	0.503
安全	-1.000	0.462	-1.000	-1.000	0.482	0.744	0.503	0.503	1.000
人間	0.462	-1.000	-1.000	0.482	-1.000	-1.000	-1.000	0.503	-1.000
反核	-1.000	-1.000	-1.000	0.730	-1.000	0.570	-1.000	-1.000	-1.000
笑顔	0.833	-1.000	-1.000	0.894	-1.000	0.758	0.758	0.525	1.000
穏やか	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.546
条約	-1.000	-1.000	-1.000	0.505	-1.000	-1.000	-1.000	0.525	-1.000
戦争放棄	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.505	-1.000	-1.000	-1.000	0.546

	人 間	反 核	笑 顔	穏やか	条 約	戦争放棄
戦 争	0.277	-0.199	-0.365	0.106	0.523	-0.754
鳩	-0.033	-0.033	0.146	0.146	0.146	0.026
広 島	-0.363	0.503	-0.007	-0.007	-0.007	-0.007
原 爆	-0.105	0.224	-0.070	-0.070	-0.070	-0.070
長 崎	-0.553	0.640	0.266	0.087	-0.490	0.404
幸 福	0.420	-0.126	0.321	0.453	0.146	-0.093
日 本	0.000	-1.000	-0.338	0.032	0.431	-0.338
自 由	0.549	0.271	0.462	-1.000	0.070	-1.000
愛	0.553	0.043	0.467	-1.000	0.467	-0.298
憲 法	-0.137	0.588	0.272	-1.000	0.272	0.272
平和公園	-0.113	0.473	0.294	0.294	-0.083	0.500
国 連	-1.000	0.304	0.333	-0.040	0.532	-0.040
核	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.383	-1.000
世 界	0.057	-1.000	0.088	0.088	0.088	0.088
自衛隊	0.057	0.057	0.088	-1.000	0.445	-1.000
核兵器	0.607	-1.000	0.454	-1.000	0.628	-1.000
公 園	-1.000	0.487	-1.000	-1.000	0.511	-1.000
憲法9条	0.167	0.507	-1.000	-1.000	0.531	0.197
希 望	-1.000	0.181	0.542	-1.000	-1.000	-1.000
安らぎ	0.194	0.194	0.224	0.552	0.224	-1.000
自 然	-1.000	0.237	0.807	0.266	0.583	-1.000
家 庭	-1.000	-1.000	0.281	-1.000	0.281	-1.000
日米安保	0.252	-1.000	0.281	-1.000	0.594	-1.000
核廃絶	0.283	-1.000	-1.000	0.311	0.311	0.311
軍 縮	0.316	0.751	0.343	-1.000	0.343	-1.000
青 空	0.332	-1.000	0.774	0.360	-1.000	-1.000
安 心	-1.000	0.350	-1.000	0.376	0.376	-1.000
鐘	-1.000	-1.000	0.376	-1.000	0.376	-1.000
白	0.350	-1.000	0.376	0.661	0.376	-1.000
子 供	0.367	-1.000	0.791	-1.000	0.791	-1.000
人 類	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
アメリカ	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
平 等	0.692	-1.000	0.447	-1.000	-1.000	0.447
家 族	0.442	0.442	0.446	-1.000	-1.000	-1.000
理 想	0.442	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
永 遠	0.717	-1.000	-1.000	-1.000	0.733	-1.000
地 球	0.462	-1.000	0.833	-1.000	-1.000	-1.000
平 穏	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
ソ	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000
緑	0.482	0.730	0.894	-1.000	0.505	-1.000
民主主義	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	-1.000	0.505
田 舎	-1.000	0.503	0.758	-1.000	-1.000	-1.000
未 来	-1.000	-1.000	0.758	-1.000	-1.000	-1.000
夢	0.503	-1.000	0.525	-1.000	0.525	-1.000
安 全	-1.000	-1.000	-1.000	0.546	-1.000	0.546
人 間	1.000	-1.000	0.546	-1.000	0.546	-1.000
反 核	-1.000	1.000	0.546	0.546	-1.000	0.771
笑 顔	0.546	0.546	1.000	-1.000	-1.000	-1.000
穏やか	-1.000	0.546	-1.000	1.000	-1.000	0.784
条 約	0.546	-1.000	-1.000	-1.000	1.000	0.567
戦争放棄	-1.000	0.772	-1.000	0.784	0.567	1.000

